

Ⅱ 平成24年(2012年)鉍工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は低下 —

平成24年の生産指数（原指数）は、前年比▲5.7%低下の97.1となり、3年ぶりに低下した（表1、図1、統計表第1表）。

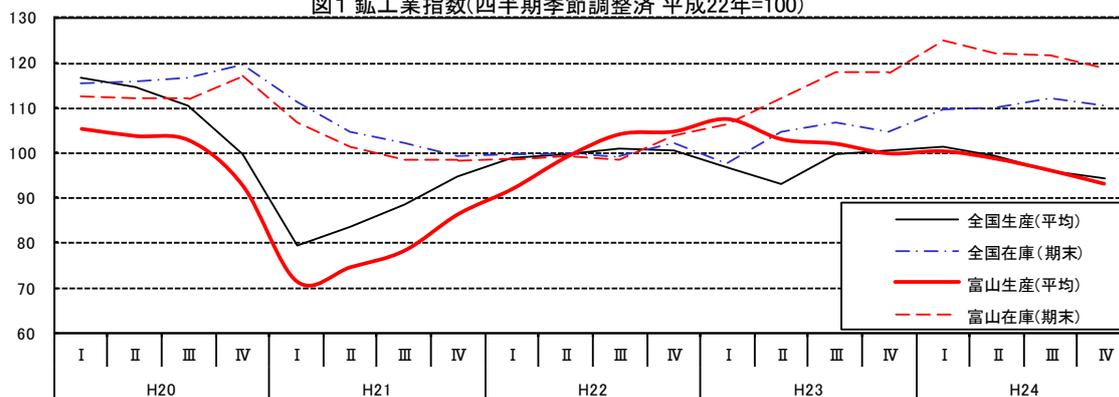
表1 鉱工業生産指数の推移

平成22年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成20年	101.2	-	-	110.7	-	-
21年	77.5	▲ 23.4	-	86.5	▲ 21.9	-
22年	100.0	29.0	-	100.0	15.6	-
23年	103.0	3.0	-	97.2	▲ 2.8	-
24年	97.1	▲ 5.7	-	97.8	0.6	-
平成24年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	100.4	-	0.5	101.3	-	0.8
II 期	98.7	-	▲ 1.7	99.1	-	▲ 2.2
III 期	96.1	-	▲ 2.6	95.9	-	▲ 3.2
IV 期	93.1	-	▲ 3.1	94.1	-	▲ 1.9

注: 全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 平成22年=100)



平成 24 年の生産の動きを四半期別にみると、生産の前期比（季節調整済指数）は、I 期 0.5%と上昇したが、II 期▲1.7%、III 期▲2.6%、IV 期▲3.1%と 3 期連続で低下した。

また、前年同期比（原指数）は、I 期▲6.0%、II 期▲4.0%、III 期▲6.2%、IV 期▲6.5%と平成 23 年 III 期から 6 期連続で前年を下回った（図 1、図 1、図 2、図 3、統計表第 3 表）。

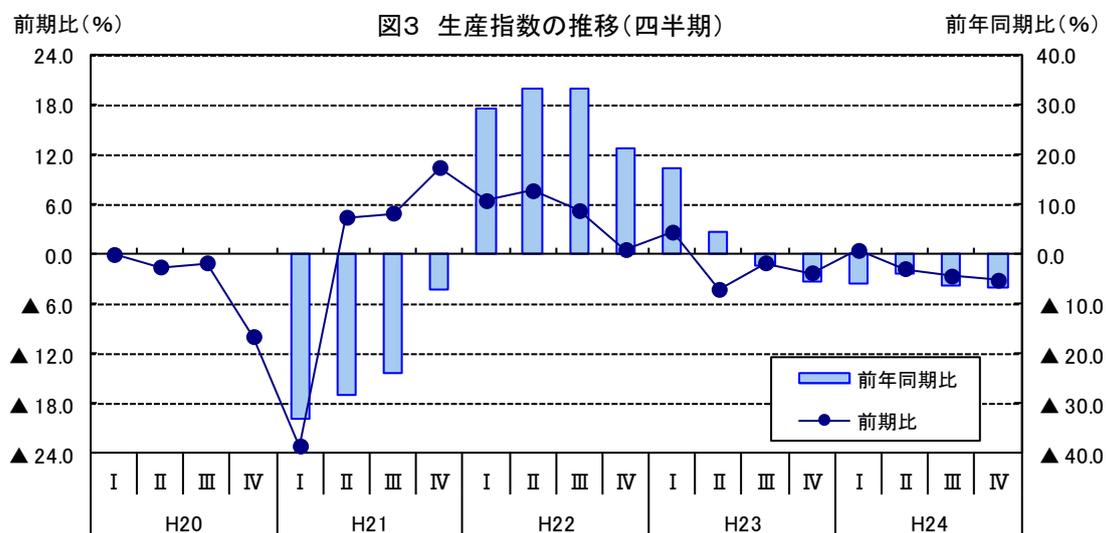
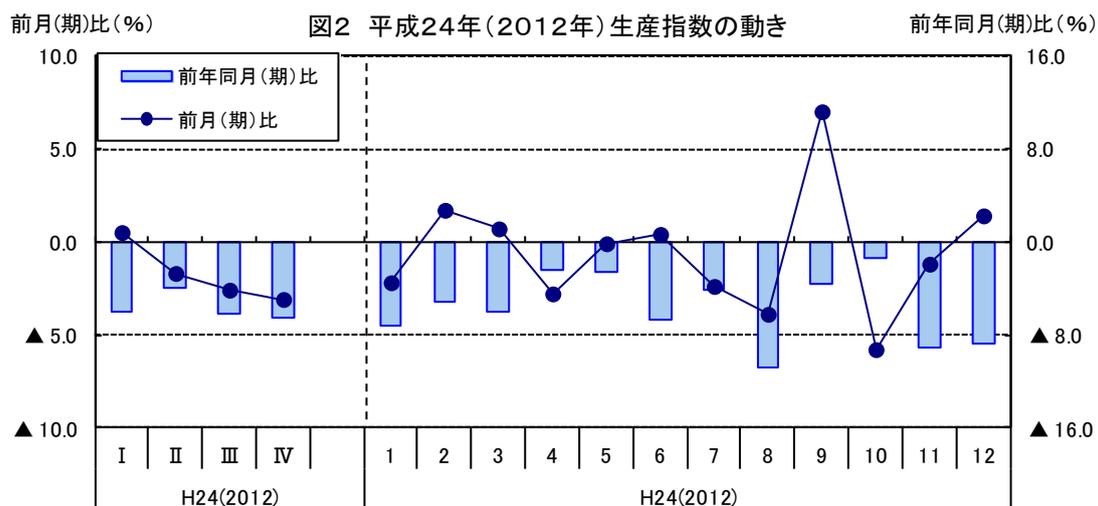


表2 生産指数(年平均)

平成22年=100

	富山県 ウェイト	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考) ウェイト
		23年	24年			
鉱工業	10000.0	103.0	97.1	▲ 5.7	▲ 5.73	10000.0
製造工業	10000.0	103.0	97.1	▲ 5.7	▲ 5.73	9978.9
鉄鋼業	369.9	106.7	95.7	▲ 10.3	▲ 0.40	391.1
非鉄金属工業	795.6	101.4	101.8	0.4	0.03	232.5
金属製品工業	892.4	101.7	101.9	0.2	0.02	418.1
はん用・生産用・業務用機械工業	1347.1	127.4	99.1	▲ 22.2	▲ 3.70	1273.1
電気機械工業	2247.2	83.5	69.6	▲ 16.6	▲ 3.03	1939.7
輸送機械工業	303.3	84.3	103.9	23.3	0.58	1912.4
窯業・土石製品工業	286.3	104.3	89.7	▲ 14.0	▲ 0.41	315.8
化学工業	1495.7	120.3	130.4	8.4	1.47	1277.4
医薬品	1029.1	129.5	149.3	15.3	1.98	272.0
プラスチック製品工業	826.0	95.6	94.1	▲ 1.6	▲ 0.12	507.5
パルプ・紙・紙加工品工業	316.9	101.1	93.4	▲ 7.6	▲ 0.24	203.6
繊維工業	268.7	97.5	98.2	0.7	0.02	183.4
食料品工業	409.2	103.6	110.2	6.4	0.26	613.9
その他工業	441.7	101.1	97.5	▲ 3.6	▲ 0.15	534.6
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10704.1	103.3	98.4	▲ 4.7	▲ 5.09	10560.0
電力・ガス事業	704.1	108.5	116.3	7.2	0.53	560.0

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

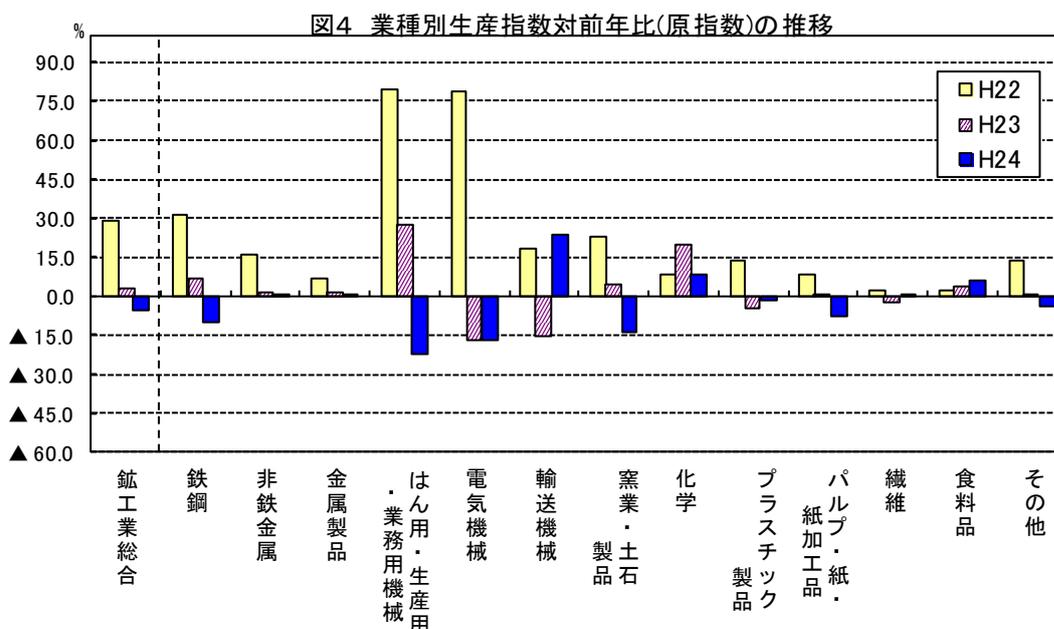
業種別にみると、製造工業 13 業種中、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、窯業・土石製品工業など 7 業種が低下し、化学工業、輸送機械工業など 6 業種が上昇した（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

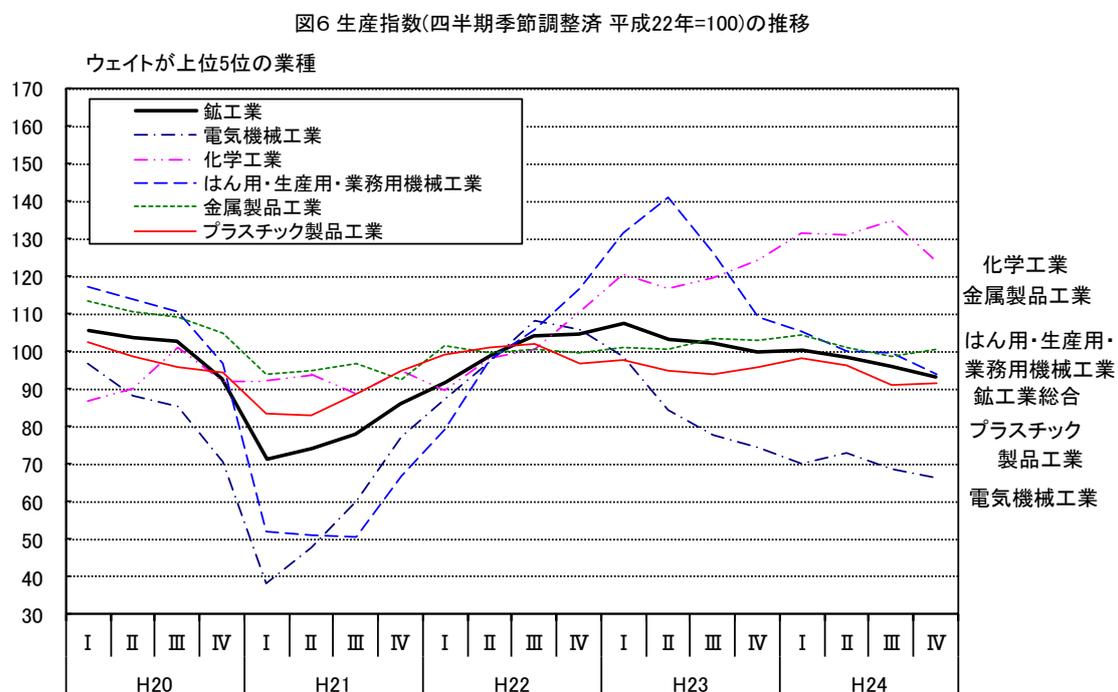
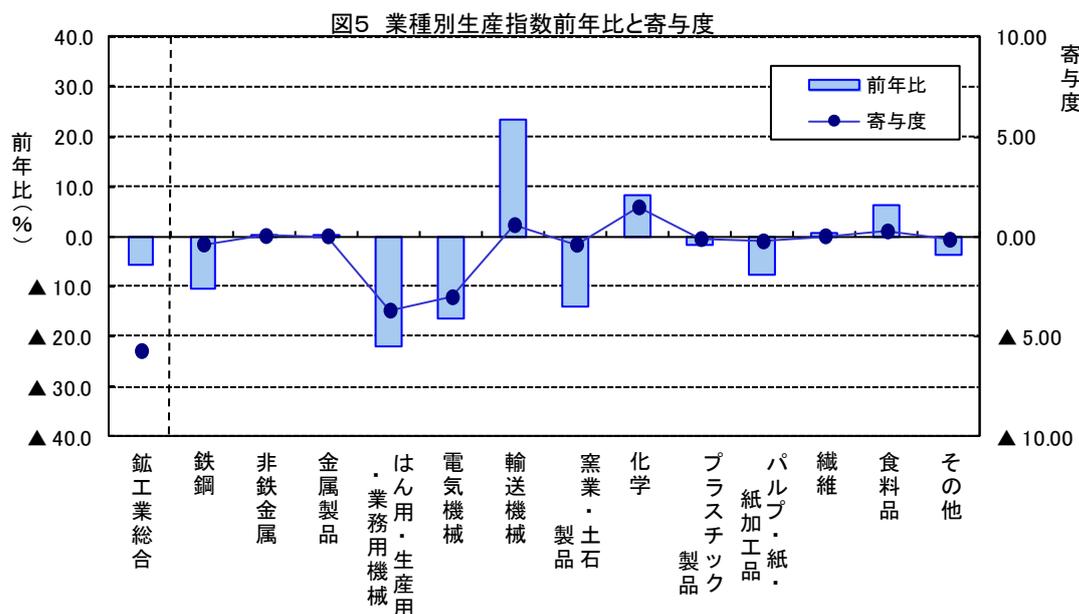
生産指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは、はん用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲3.70）で、金属工作機械などの減少により、前年比▲22.2%低下の 99.1 となった。ついで、電気機械工業（寄与度▲3.03）が、集積回路などの減少により前年比▲16.6%低下の 69.6 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 1.47）で医薬品などの増加により、前年比 8.4%上昇の 130.4 となった。次いで、輸送機械工業（寄与度 0.58）が自動車ボデーなどの増加で前年比 23.3%上昇の 103.9 となった。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 3.70	金型	金属工作機械
	電気機械工業	▲ 3.03	電子部品	集積回路
	窯業・土石製品工業	▲ 0.41	ガラス製品	生コンクリート
	鉄鋼業	▲ 0.40	—	鑄鍛鋼品類
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.24	—	紙
	その他工業	▲ 0.15	ゴム製品工業	その他製品工業
	プラスチック製品工業	▲ 0.12	建材・強化製品	フィルム・シート
上昇業種	化学工業	1.47	医薬品	その他化学製品
	輸送機械工業	0.58	自動車ボデー	二輪自動車部品
	食料品工業	0.26	飲料	調味料
	非鉄金属工業	0.03	非鉄金属鑄物	アルミニウム二次精錬
	繊維工業	0.02	その他繊維製品	化繊・紡績
	金属製品工業	0.02	軽金属板製品	金属製建具





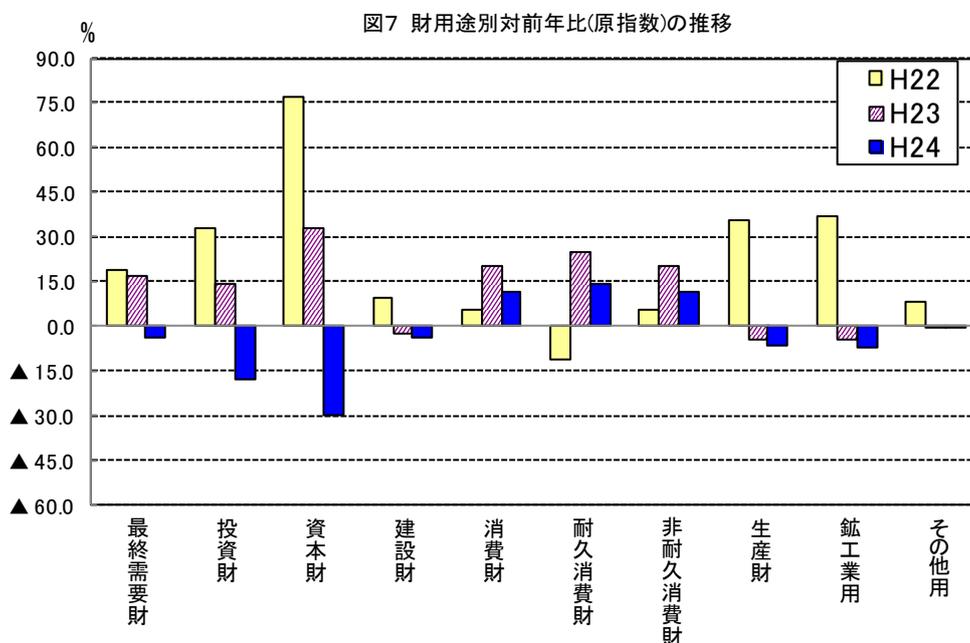
財用途別生産指数(原指数)の前年比は、最終需要財が▲4.2%低下し、生産財が▲6.7%低下したことにより、全体で▲5.7%低下した。

最終需要財は、消費財(寄与度2.14)は前年比11.3%上昇したが、投資財(寄与度▲3.79)が前年比▲18.1%低下したことにより、全体では▲4.2%の低下となった。

生産財では、鉱工業用生産財(寄与度▲4.00)が前年比▲6.9%低下し、その他用生産財(寄与度▲0.02)も前年比▲0.7%低下したことにより、全体では▲6.7%の低下となった(表4、図7、統計表第2表)。

表4 生産指数(財用途分類・年平均) 平成22年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%point)
		23年	24年		
鉱工業	10000.0	103.0	97.1	▲5.7	▲5.73
最終需要財	3519.3	116.9	112.0	▲4.2	▲1.67
投資財	1896.8	113.9	93.3	▲18.1	▲3.79
資本財	869.6	133.0	92.9	▲30.2	▲3.39
建設財	1027.2	97.7	93.6	▲4.2	▲0.41
消費財	1622.5	120.3	133.9	11.3	2.14
耐久消費財	4.7	124.6	142.3	14.2	0.01
非耐久消費財	1617.8	120.3	133.8	11.2	2.12
生産財	6480.7	95.5	89.1	▲6.7	▲4.03
鉱工業用生産財	6247.9	95.3	88.7	▲6.9	▲4.00
その他用生産財	232.8	99.7	99.0	▲0.7	▲0.02



(2) 在庫動向 — 在庫指数は上昇 —

平成24年の在庫指数(原指数)は、前年末比0.4%上昇の116.0となり、3年連続で上昇した(表5)。

平成24年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I期6.0%と上昇し、II期▲2.4%、III期▲0.4%、IV期▲2.4%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)では、I期17.8%、II期8.6%、III期3.2%、IV期0.4%と平成22年IV期から9期連続で前年を上回った(図8、図9、統計表第4表)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成22年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成20年	114.8	-	-	121.9	-	-
21年	96.6	▲15.9	-	100.5	▲17.6	-
22年	102.1	5.7	-	102.9	2.4	-
23年	115.5	13.1	-	105.0	2.0	-
24年	116.0	0.4	-	110.5	5.2	-
平成24年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	125.0	-	6.0	109.6	-	4.9
II 期	122.0	-	▲2.4	110.2	-	0.5
III 期	121.5	-	▲0.4	112.2	-	1.8
IV 期	118.6	-	▲2.4	110.4	-	▲1.6

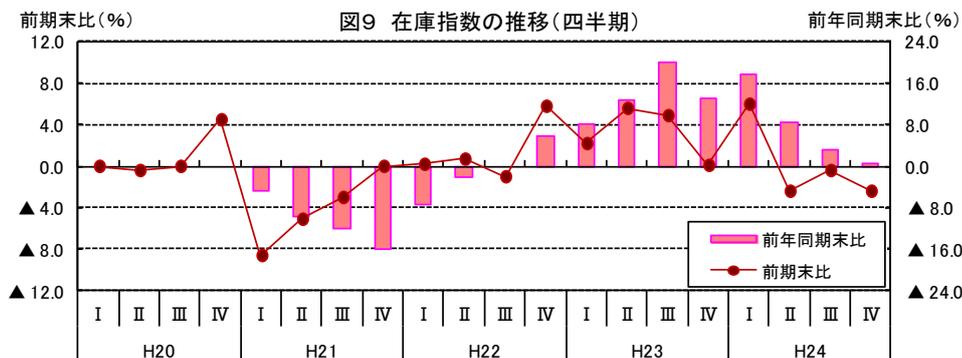
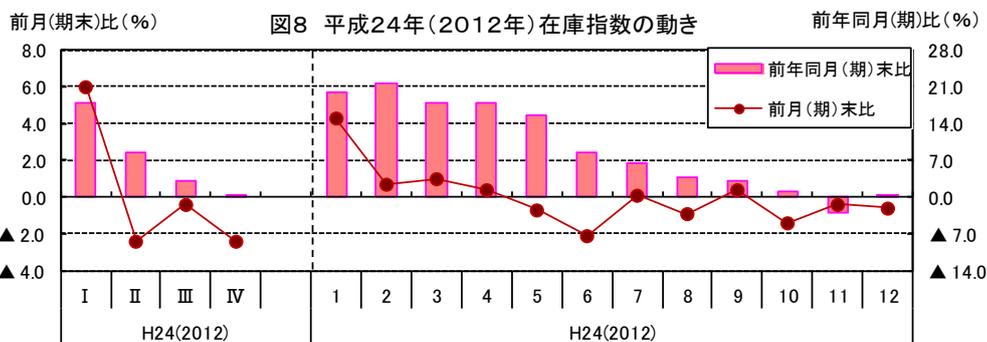


表6 在庫指数(年末)

平成22年=100

	富山県 ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考) ウェイト
		23年	24年			
鉱工業	10000.0	115.5	116.0	0.4	0.43	10000.0
製造工業	10000.0	115.5	116.0	0.4	0.43	9988.1
鉄鋼業	719.2	87.2	110.2	26.4	1.43	1382.7
非鉄金属工業	554.1	133.5	102.1	▲ 23.5	▲ 1.51	306.5
金属製品工業	638.1	64.9	67.3	3.7	0.13	435.0
はん用・生産用・業務用機械工業	1462.6	158.9	121.9	▲ 23.3	▲ 4.69	1127.1
電気機械工業	374.5	131.0	337.0	157.3	6.68	973.5
輸送機械工業	200.6	127.3	155.3	22.0	0.49	1013.1
窯業・土石製品工業	409.7	79.8	81.0	1.5	0.04	643.2
化学工業	2727.9	127.5	118.1	▲ 7.4	▲ 2.22	1413.1
医薬品	1424.6	138.6	138.5	▲ 0.1	▲ 0.01	-
プラスチック製品工業	942.9	105.7	121.4	14.9	1.28	661.4
パルプ・紙・紙加工品工業	773.9	100.6	94.7	▲ 5.9	▲ 0.40	340.3
繊維工業	389.0	109.5	94.1	▲ 14.1	▲ 0.52	421.3
食料品工業	649.2	84.8	80.4	▲ 5.2	▲ 0.25	326.5
その他工業	158.3	91.3	89.1	▲ 2.4	▲ 0.03	446.9
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10000.3	115.5	116.0	0.4	0.43	10000.0
電力・ガス事業	0.3	74.0	72.3	▲ 2.3	▲ 0.00	-

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

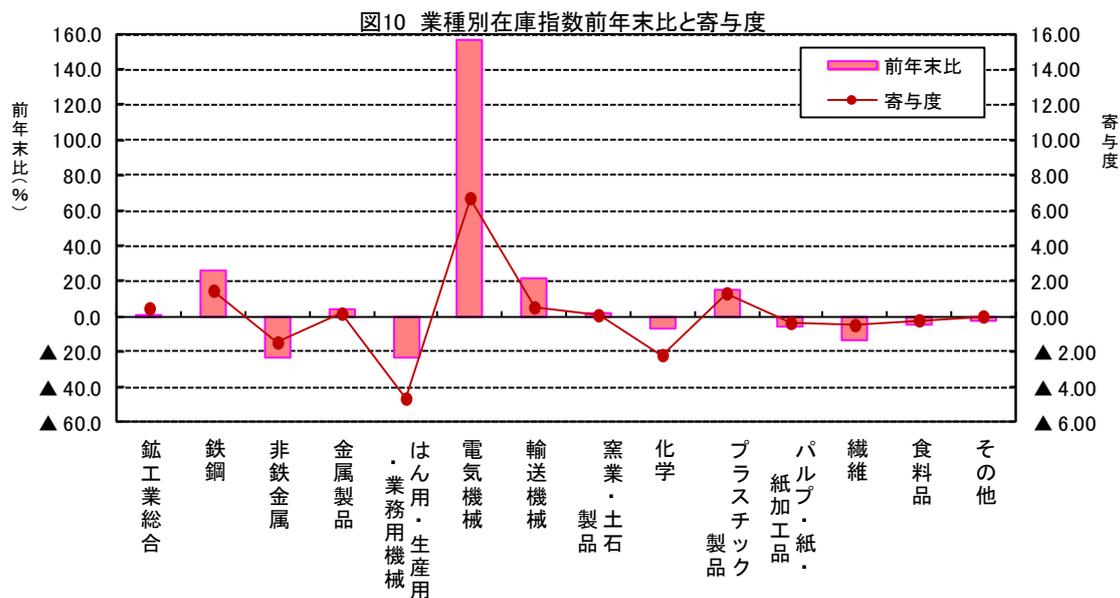
業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、鉄鋼業、プラスチック製品工業など 6 業種が上昇し、はん用・生産用・業務用機械工業、化学工業など 7 業種が低下した（表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

在庫指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは電気機械工業（寄与度 6.68）で、電子部品などの増加により、前年末比 157.3%上昇の 337.0 となった。ついで、鉄鋼業（寄与度 1.43）は素製品（鋼半製品含）などの増加により、前年末比 26.4%上昇の 110.2 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは、はん用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲4.69）で機械工具などの減少により、前年末比▲23.3%低下の 121.9 となった。次いで、化学工業（寄与度▲2.22）がプラスチック樹脂などの減少で前年末比▲7.4%低下の 118.1 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
上昇 業種	電気機械工業	6.68	電子部品	半導体
	鉄鋼業	1.43	素製品(鋼半製品含)	鑄鍛鋼品類
	プラスチック製品工業	1.28	日用品雑貨	その他プラスチック製品
	輸送機械工業	0.49	二輪自動車部品	—
	金属製品工業	0.13	金属製建具	軽金属板製品
	窯業・土石製品工業	0.04	炭素製品	その他窯業・土石製品
低下 業種	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 4.69	金属工作機械	機械工具
	化学工業	▲ 2.22	化学肥料	プラスチック樹脂
	非鉄金属工業	▲ 1.51	アルミニウム二次精錬	アルミニウム圧延製品
	繊維工業	▲ 0.52	染色整理	化繊・紡績
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.40	その他紙製品	紙
	食料品工業	▲ 0.25	調味料	飲料
	その他工業	▲ 0.03	その他製品工業	木材・木製品工業



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が 3.8%上昇し、生産財が▲1.4%低下したことにより、全体で 0.4%上昇した。

最終需要財では、投資財（寄与度 0.60）が前年末比 6.5%上昇し、消費財（寄与度 0.74）が前年末比 2.8%上昇したことにより、全体では 3.8%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲0.83）が前年末比▲1.4%の低下となった（表 8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)
		23年	24年		
鉱工業	10000.0	115.5	116.0	0.4	0.43
最終需要財	3940.3	106.1	110.1	3.8	1.36
投資財	1336.7	80.0	85.2	6.5	0.60
資本財	266.9	126.1	115.1	▲ 8.7	▲ 0.25
建設財	1069.8	68.4	77.7	13.6	0.86
消費財	2603.6	119.6	122.9	2.8	0.74
耐久消費財	2.7	112.2	56.0	▲ 50.1	▲ 0.01
非耐久消費財	2600.9	119.6	123.0	2.8	0.77
生産財	6059.7	121.6	119.9	▲ 1.4	▲ 0.89
鉱工業用生産財	5657.0	123.5	121.8	▲ 1.4	▲ 0.83
その他用生産財	402.7	96.1	92.5	▲ 3.7	▲ 0.13

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成22年Ⅰ～Ⅳ期、平成23年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」に、Ⅱ～Ⅳ期、平成24年Ⅰ、Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」へ、Ⅲ、Ⅳ期は「在庫調整局面」に移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成22年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に、平成23年Ⅰ期、Ⅱ期は「在庫調整局面」に、Ⅲ期、Ⅳ期、平成24年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、Ⅱ期は「在庫積み増し局面」に、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」に、Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起り、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（キッチン（Kitchen）が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、次のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

図11 富山県の在庫循環の推移

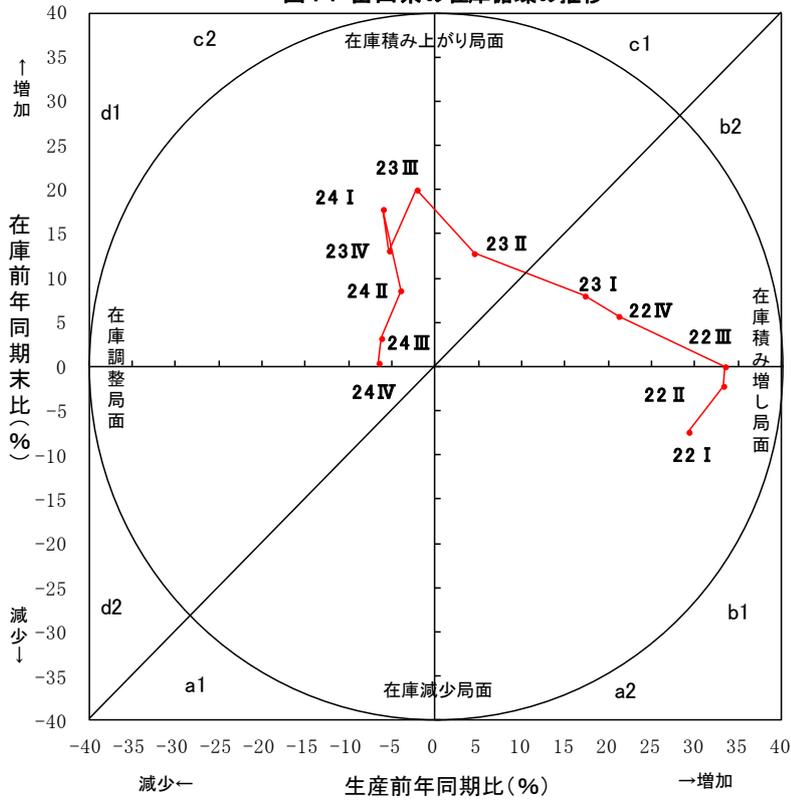
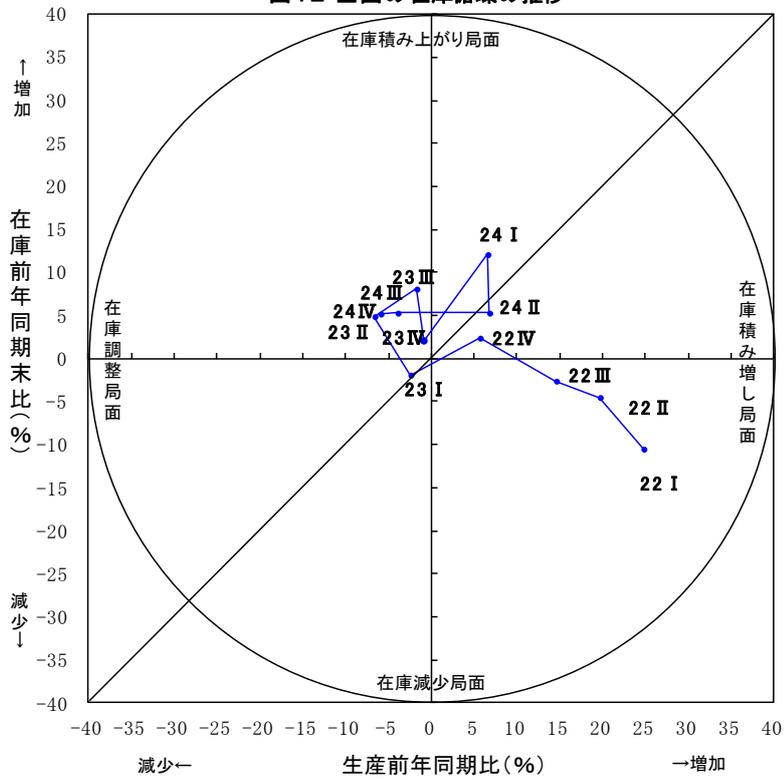


図12 全国の在庫循環の推移



MEMO

2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

① 概況

生産指数は前年比▲10.3%（寄与度▲0.40）低下の95.7となり、3年ぶりに低下した。これは、3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比26.4%（寄与度1.43）上昇の110.2となり、2年ぶりに上昇した。これは3品目中、1品目（鋳鍛鋼品類）が減少したものの、2品目（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材）が増加したことによる（表1、統計表第9表）。

表1 品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
		平成22年=100					平成22年=100			
鉄鋼業	369.9	106.7	95.7	▲10.3	▲0.40	719.2	87.2	110.2	26.4	1.43
素製品(鋼半製品含)	128.7	109.5	105.2	▲3.9	▲0.05	557.6	82.5	98.4	19.3	0.77
熱間圧延鋼材	76.7	102.8	92.1	▲10.4	▲0.08	131.9	101.2	161.1	59.2	0.68
鋳鍛鋼品類	164.5	106.3	89.8	▲15.5	▲0.26	29.7	112.1	106.2	▲5.3	▲0.02

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

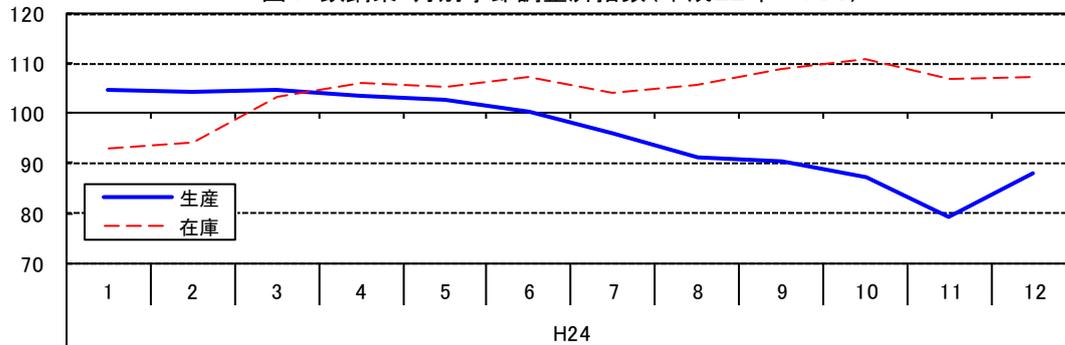
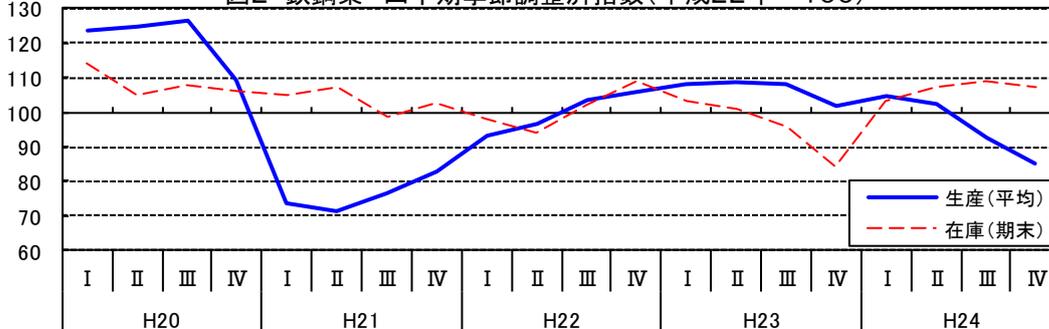


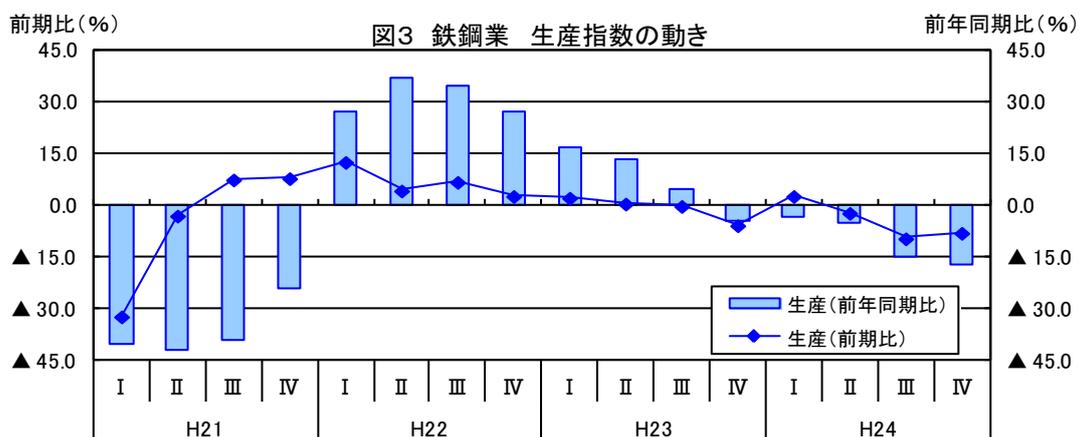
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期2.6%と上昇したが、II期▲2.3%、III期▲9.7%、IV期▲8.1%と3期連続で低下した。

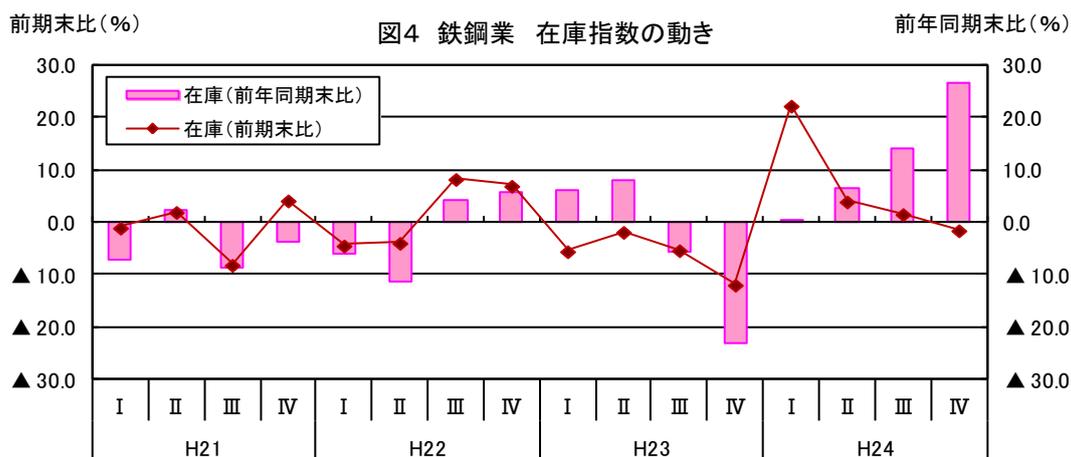
また、前年同期比(原指数)は、I期▲3.4%、II期▲5.6%、III期▲15.1%、IV期▲17.5%と4期連続で前年を下回った(図3、統計表第3表)。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期22.3%、II期4.0%、III期1.6%と3期連続で上昇したが、IV期▲1.5%と低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期0.4%、II期6.5%、III期14.1%、IV期26.4%と4期連続で前年を上回った(図4、統計表第4表)。



(2) 非鉄金属工業

① 概況

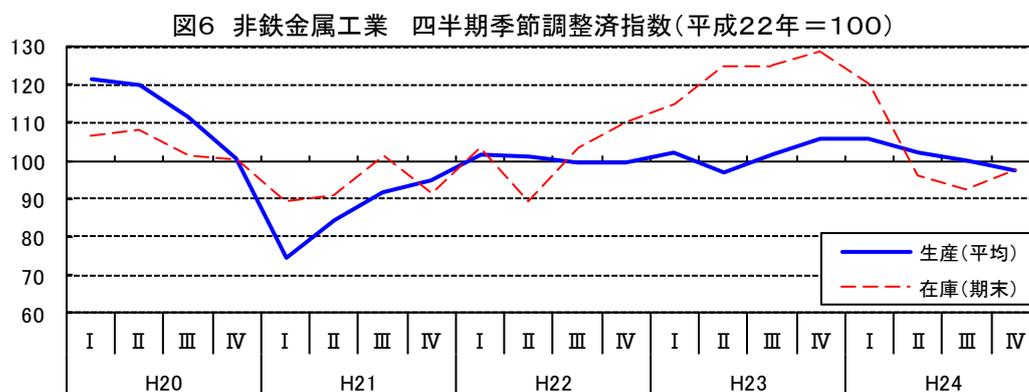
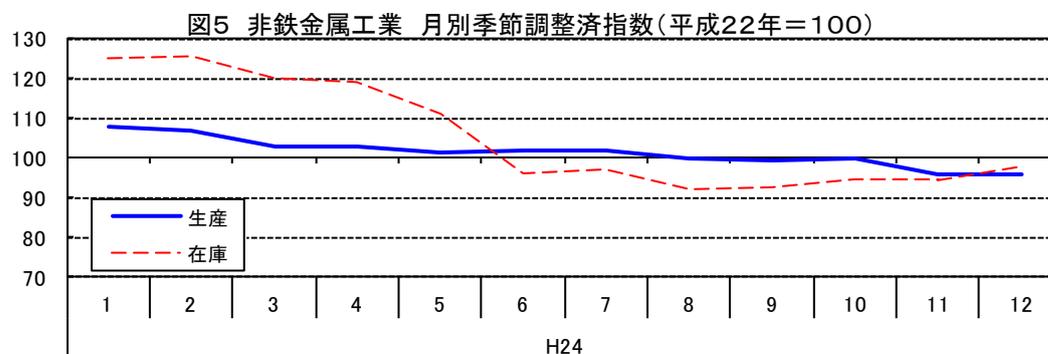
生産指数は前年比 0.4%（寄与度 0.03）上昇の 101.8 となり、3 年連続で上昇した。これは 7 品目中、4 品目（アルミニウム二次精錬、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル）が減少したものの、3 品目（非鉄金属地金、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品）が増加したことによる（表 2、統計表第 1 表）。

在庫指数は前年末比▲23.5%（寄与度▲1.51）低下の 102.1 となり、3 年ぶりに低下した。これは 6 品目中、2 品目（アルミニウム二次精錬、伸銅製品）が増加したものの、4 品目（非鉄金属地金、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル、その他非鉄金属製品）が減少したことによる（表 2、統計表第 9 表）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
		平成22年=100								
非鉄金属工業	795.6	101.4	101.8	0.4	0.03	554.1	133.5	102.1	▲23.5	▲1.51
アルミニウム二次精錬	109.3	101.8	99.6	▲2.2	▲0.02	41.3	55.4	80.2	44.8	0.09
非鉄金属地金	17.4	97.2	100.4	3.3	0.01	67.0	139.1	108.5	▲22.0	▲0.18
伸銅製品	105.6	100.1	98.2	▲1.9	▲0.02	163.6	124.7	124.8	0.1	0.00
アルミニウム圧延製品	402.8	101.5	101.1	▲0.4	▲0.02	257.6	128.0	72.2	▲43.6	▲1.24
電線ケーブル	22.3	89.6	84.4	▲5.8	▲0.01	24.2	370.5	287.3	▲22.5	▲0.17
非鉄金属鋳物	126.4	105.3	112.2	6.6	0.08	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	11.8	94.8	102.0	7.6	0.01	0.4	119.3	81.9	▲31.3	▲0.00

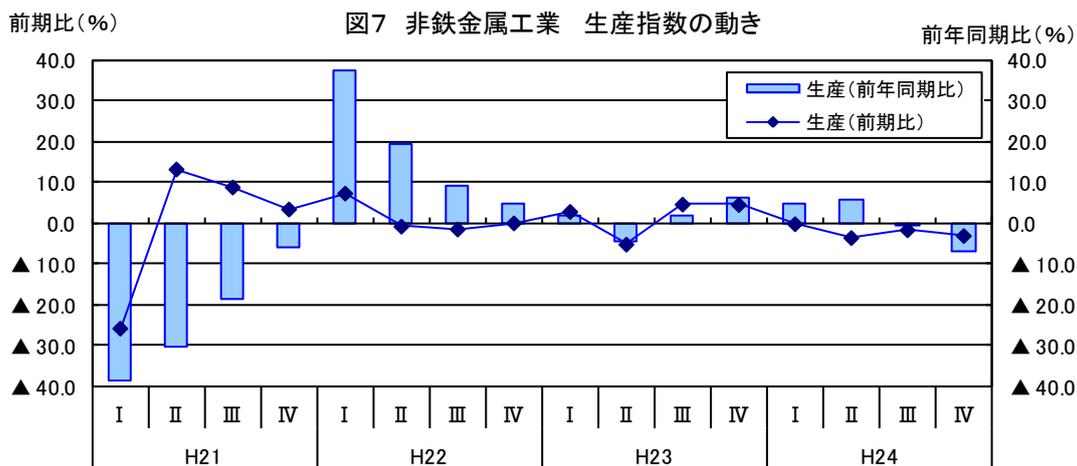
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.2%、Ⅱ期▲3.6%、Ⅲ期▲1.7%、Ⅳ期▲3.1%と4期連続で低下した。

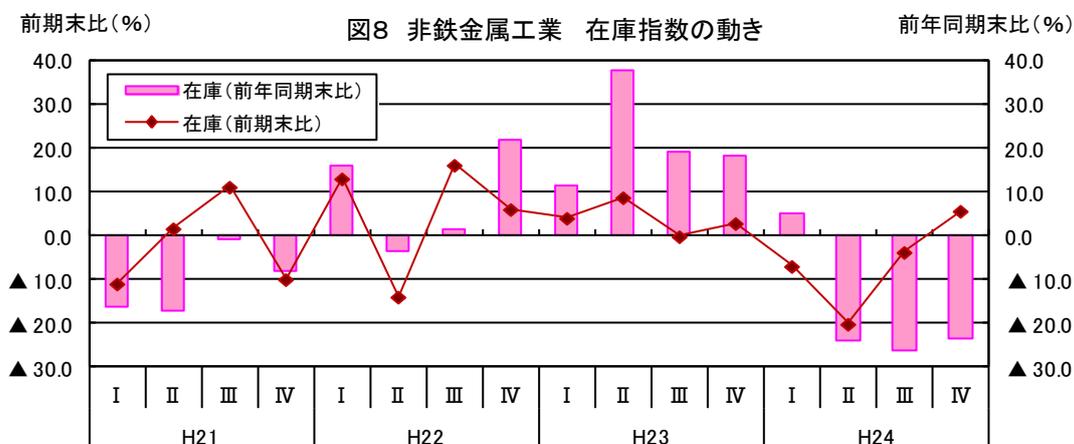
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期4.6%、Ⅱ期5.5%と平成23年Ⅲ期以降4期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲0.7%、Ⅳ期▲6.8%と2期連続で前年を下回った（図7、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲6.8%、Ⅱ期▲20.0%、Ⅲ期▲3.6%と3期連続で低下したが、Ⅳ期5.8%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期5.3%と平成22年Ⅲ期以降7期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲24.0%、Ⅲ期▲26.3%、Ⅳ期▲23.5%と3期連続で前年を下回った（図8、統計表第4表）。



(3) 金属製品工業

① 概況

生産指数は前年比 0.2%（寄与度 0.02）上昇の 101.9 となり、3 年連続で上昇した。これは 6 品目中、2 品目（金属製建具、その他金属製品）が減少したものの、4 品目（鉄構物、軽金属板製品、管継手、ばね）が増加したことによる（表 3、統計表第 1 表）。

在庫指数は前年末比 3.7%（寄与度 0.13）上昇の 67.3 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 4 品目中、3 品目（軽金属板製品、ばね、その他金属製品）が減少したものの、1 品目（金属製建具）が増加したことによる（表 3、統計表第 9 表）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
		平成22年=100								
金属製品工業	892.4	101.7	101.9	0.2	0.02	638.1	64.9	67.3	3.7	0.13
鉄構物	64.3	95.0	110.7	16.5	0.10	-	-	-	-	-
金属製建具	708.0	99.1	94.1	▲ 5.0	▲ 0.34	591.4	56.6	60.1	6.2	0.18
軽金属板製品	50.9	142.5	199.4	39.9	0.28	26.5	195.3	180.7	▲ 7.5	▲ 0.03
管継手	4.9	121.0	127.0	5.0	0.00	-	-	-	-	-
ばね	5.5	91.7	96.3	5.0	0.00	6.3	126.4	109.5	▲ 13.4	▲ 0.01
その他金属製品	58.8	104.9	99.3	▲ 5.3	▲ 0.03	13.9	142.9	135.9	▲ 4.9	▲ 0.01

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

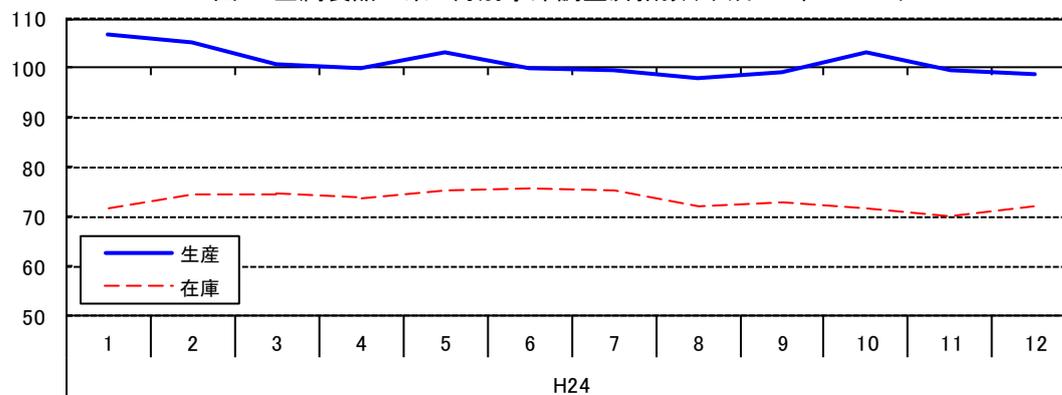
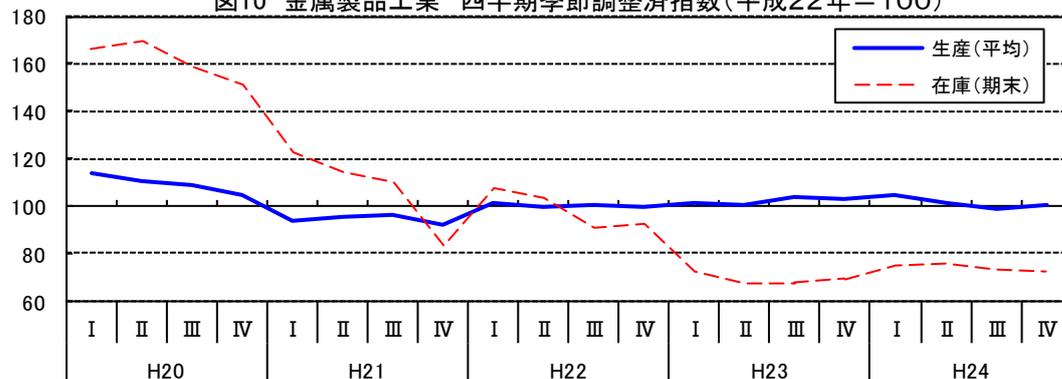


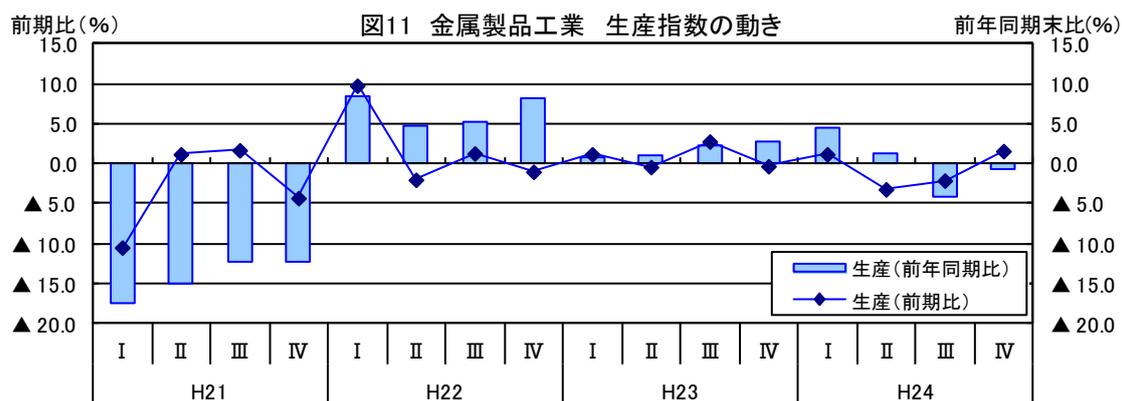
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.2%と上昇し、Ⅱ期▲3.2%、Ⅲ期▲2.1%と低下したが、Ⅳ期 1.6%と再び上昇した。

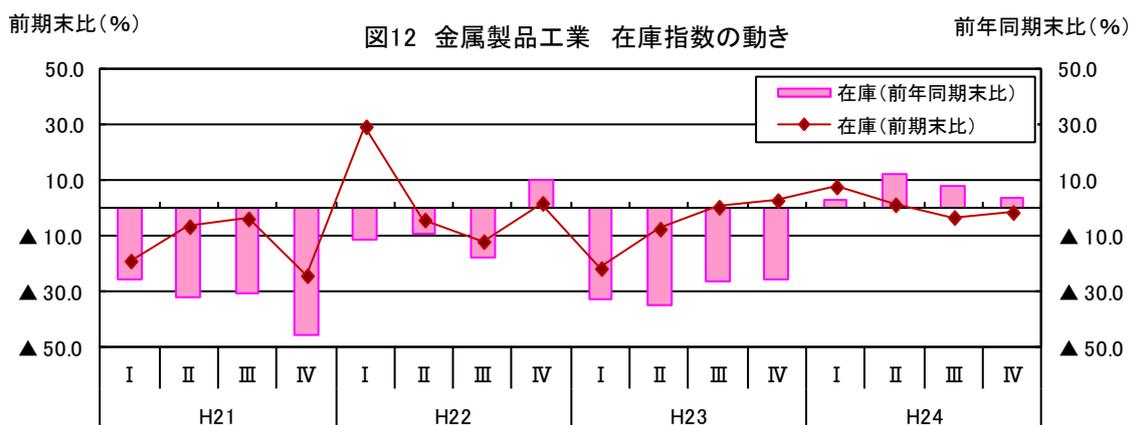
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 4.4%、Ⅱ期 1.3%と平成 22 年Ⅰ期以降 10 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲4.3%、Ⅳ期▲0.6%と前年を下回った（図 11、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 7.7%、Ⅱ期 1.3%と平成 23 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲3.3%、Ⅳ期▲1.5%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 3.1%、Ⅱ期 12.4%、Ⅲ期 7.9%、Ⅳ期 3.7%と 4 期連続で前年を上回った（図 12、統計表第 4 表）。



(4) はん用・生産用・業務用機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲22.2%（寄与度▲3.70）低下の99.1となり、3年ぶりに低下した。これは8品目中1品目（金型）が増加したものの、7品目（油圧機器、軸受、ロボット・産業機械、金属工作機械、機械工具、その他一般機械・部品、業務用機械）が減少したことによる（表4、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比▲23.3%（寄与度▲4.69）低下の121.9となり、3年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（金属工作機械）が増加したものの、4品目（軸受、機械工具、その他一般機械・部品、業務用機械）が減少したことによる（表4、統計表第9表）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
はん用・生産用・業務用機械工業	1347.1	127.4	99.1	▲22.2	▲3.70	1,462.6	158.9	121.9	▲23.3	▲4.69
油圧機器	86.2	135.2	122.9	▲9.1	▲0.10	-	-	-	-	-
軸受	313.7	109.8	103.3	▲5.9	▲0.20	580.5	161.4	130.9	▲18.9	▲1.53
ロボット・産業機械	283.7	141.7	113.2	▲20.1	▲0.78	-	-	-	-	-
金属工作機械	371.8	138.2	74.7	▲45.9	▲2.29	88.4	81.0	131.1	61.9	0.38
金型	59.5	103.4	107.9	4.4	0.03	-	-	-	-	-
機械工具	180.9	121.9	103.7	▲14.9	▲0.32	708.6	173.7	119.9	▲31.0	▲3.30
その他一般機械・部品	36.8	127.6	123.2	▲3.4	▲0.02	42.0	99.6	70.1	▲29.6	▲0.11
業務用機械	14.5	77.0	65.0	▲15.6	▲0.02	43.1	100.7	64.5	▲35.9	▲0.14

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 はん用・生産用・業務用機械工業月別季節調整済指数(平成22年=100)

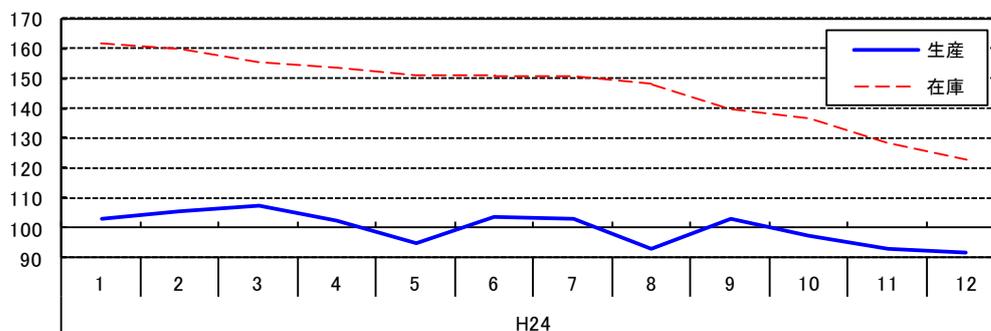
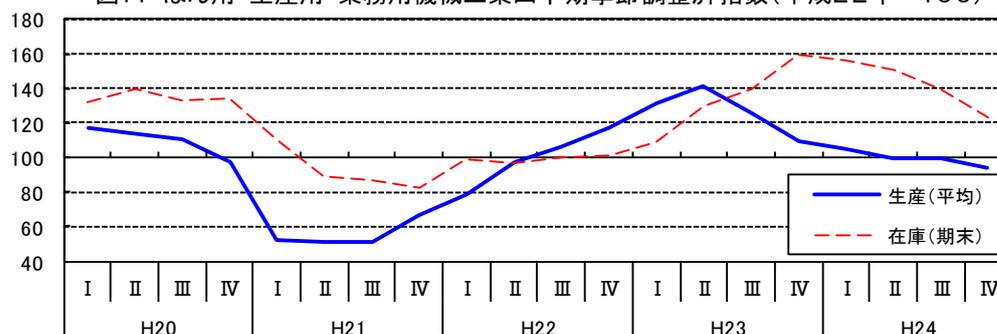


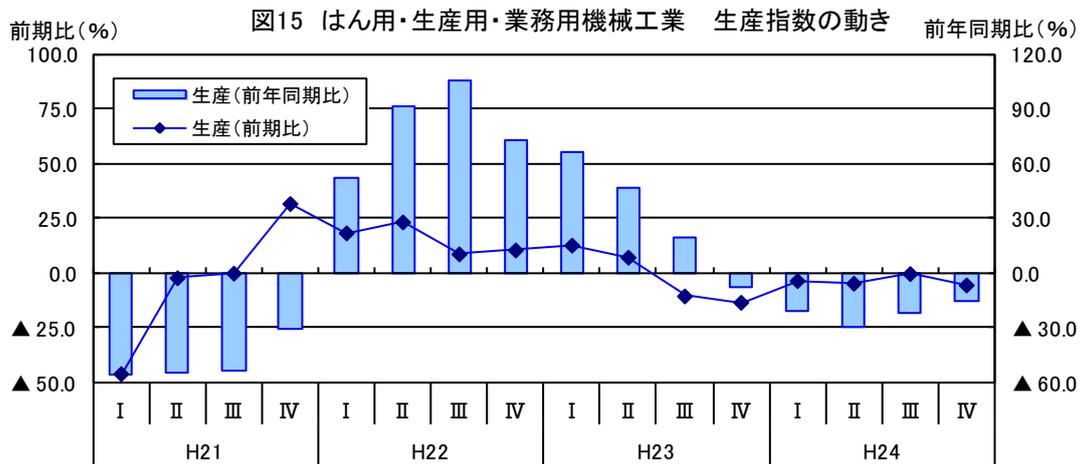
図14 はん用・生産用・業務用機械工業四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.6%、Ⅱ期▲4.8%、Ⅲ期▲0.4%、Ⅳ期▲5.6%と平成23年Ⅲ期以降6期連続で低下した。

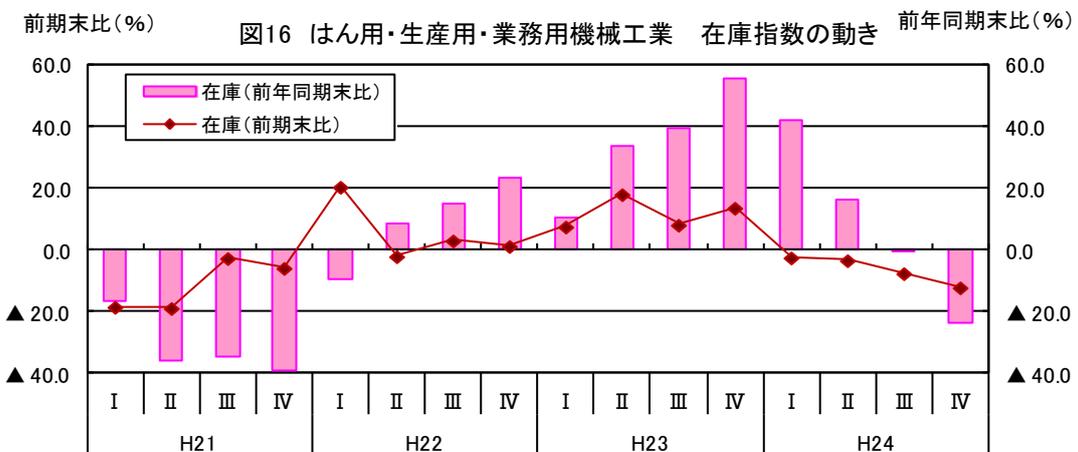
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲20.6%、Ⅱ期▲29.7%、Ⅲ期▲21.6%、Ⅳ期▲15.2%と平成23年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図15、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲2.3%、Ⅱ期▲3.2%、Ⅲ期▲7.4%、Ⅳ期▲12.0%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期42.4%、Ⅱ期16.6%と平成22年Ⅱ期以降9期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲0.4%、Ⅳ期▲23.3%と前年を下回った（図16、統計表第4表）。



(5) 電気機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲16.6%（寄与度▲3.03）低下の69.6となり、2年連続で低下した。

これは6品目中、2品目（回転・静止電気機器、電子部品）が増加したものの、4品目（その他電気機械、半導体、集積回路、抵抗器）が減少したことによる（表5、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比157.3%（寄与度6.68）上昇の337.0となり、3年連続で上昇した。これは3品目中、2品目（回転・静止電気機器、半導体）が減少したものの、1品目（電子部品）が増加したことによる（表5、統計表第9表）。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
電気機械工業	2247.2	83.5	69.6	▲16.6	▲3.03	374.5	131.0	337.0	157.3	6.68
回転・静止電気機器	54.9	88.9	91.2	2.6	0.01	51.7	135.6	97.9	▲27.8	▲0.17
その他電気機械	41.8	161.6	87.0	▲46.2	▲0.30	-	-	-	-	-
半導体	12.5	78.6	74.6	▲5.1	▲0.00	58.6	111.9	47.5	▲57.6	▲0.33
集積回路	1705.5	79.4	61.5	▲22.5	▲2.96	-	-	-	-	-
抵抗器	31.4	92.5	74.9	▲19.0	▲0.05	-	-	-	-	-
電子部品	401.1	91.4	98.6	7.9	0.28	264.2	134.3	448.0	233.6	7.18

平成22年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成22=100)

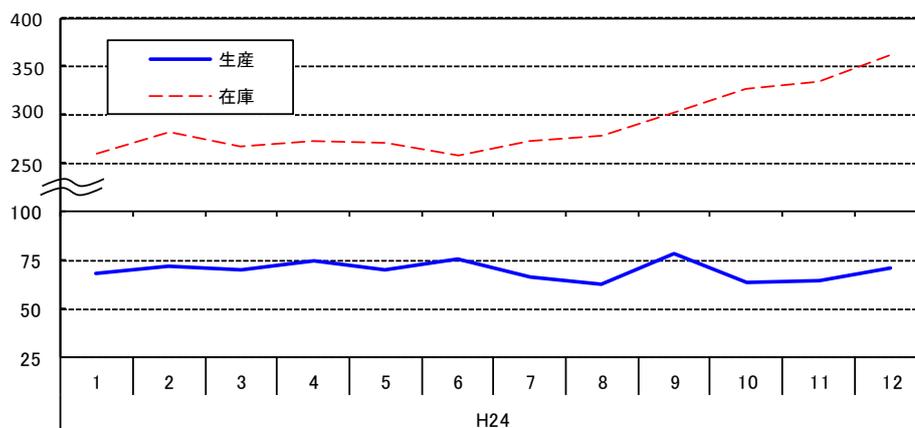
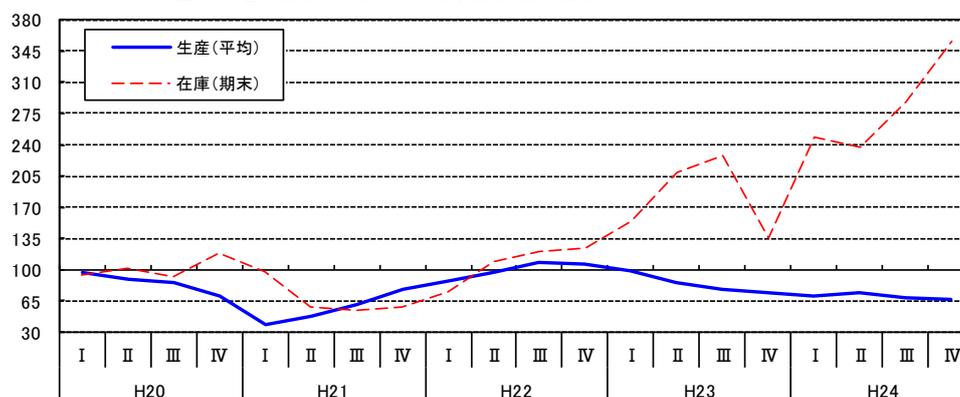


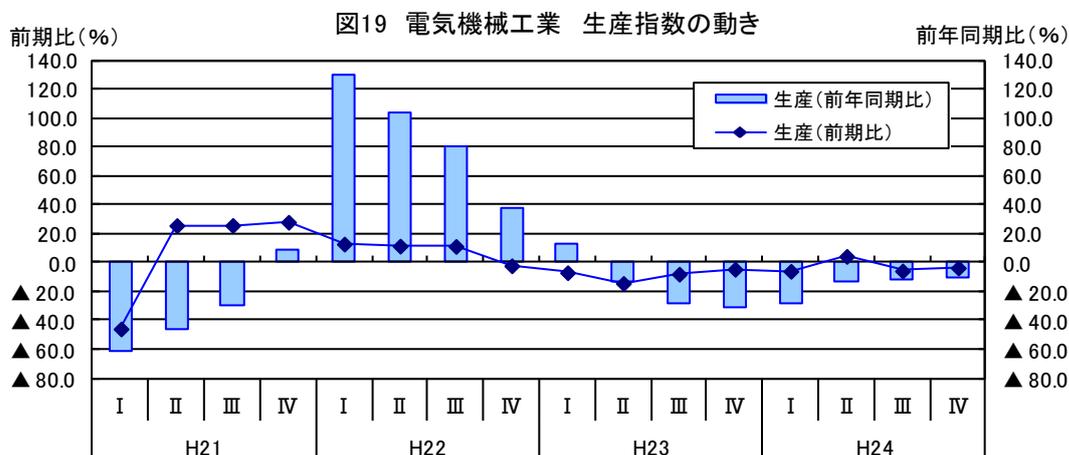
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲5.9%と平成22年Ⅳ期以降6期連続で低下し、Ⅱ期4.4%と上昇したが、Ⅲ期▲5.7%、Ⅳ期▲3.6%と再び低下した。

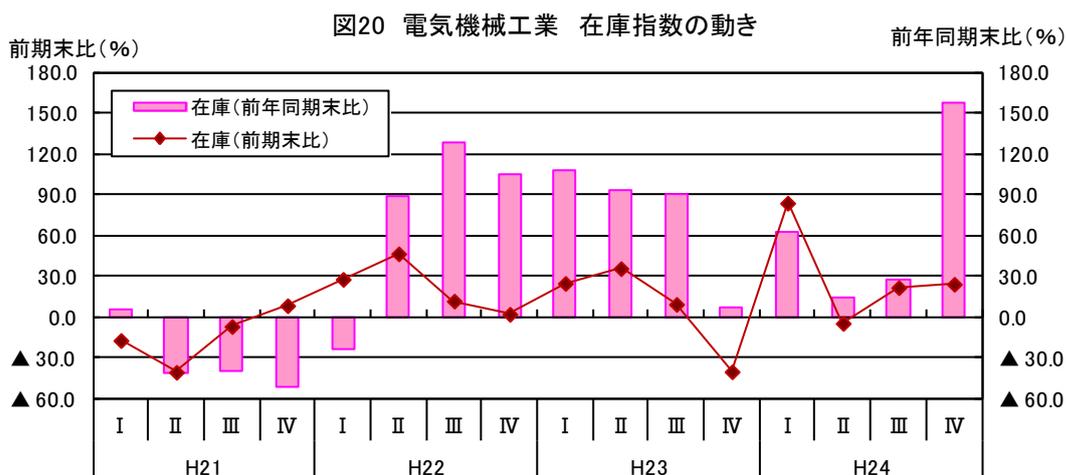
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲28.8%、Ⅱ期▲13.1%、Ⅲ期▲12.2%、Ⅳ期▲10.7%と平成23年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った（図19、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期83.7%と上昇し、Ⅱ期▲4.8%と低下したが、Ⅲ期21.5%、Ⅳ期24.0%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期61.7%、Ⅱ期14.1%、Ⅲ期27.3%、Ⅳ期157.3%と平成22年Ⅱ期以降11期連続で前年を上回った（図20、統計表第4表）。



(6) 輸送機械工業

① 概況

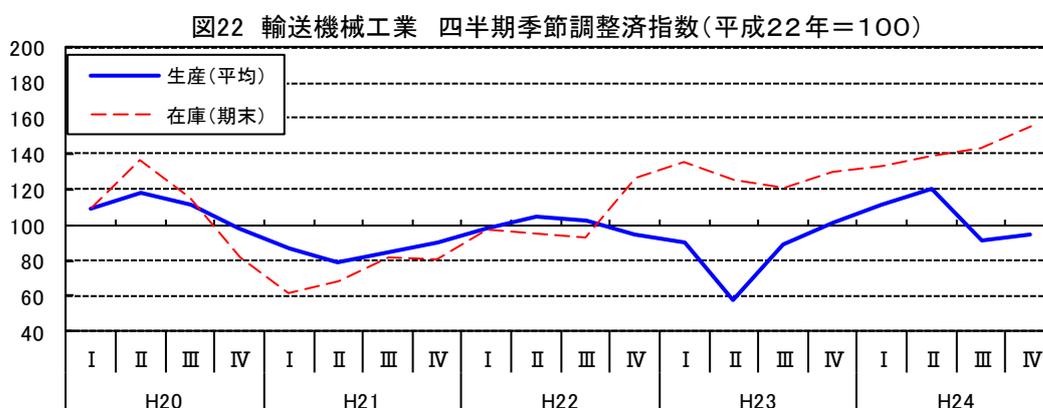
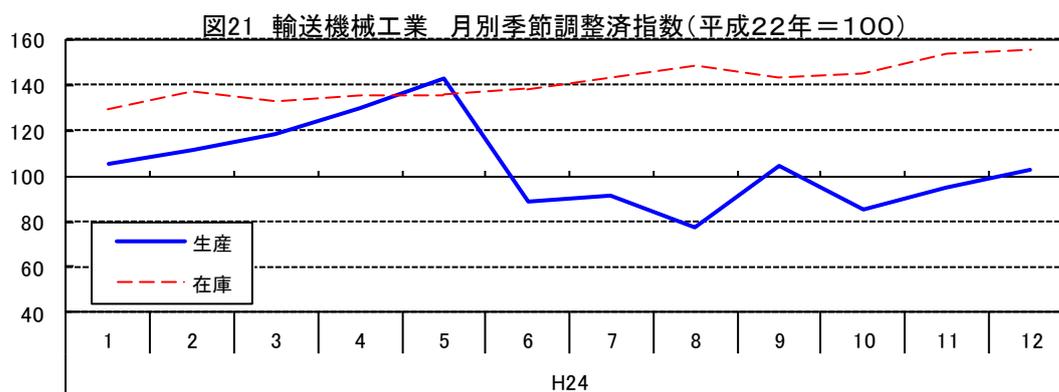
生産指数は前年比 23.3% (寄与度 0.58) 上昇の 103.9 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 3 品目中、1 品目 (二輪自動車部品) が減少したものの、2 品目 (自動車ボデー、自動車部品) が増加したことによる (表 6、統計表第 1 表)。

在庫指数は前年末比 22.0% (寄与度 0.49) 上昇の 155.3 となり、4 年連続で上昇した。これは 2 品目 (二輪自動車部品、自動車部品) すべてが増加したことによる (表 6、統計表第 9 表)。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
		輸送機械工業	303.3				84.3	103.9		
自動車ボデー	176.7	82.2	105.9	28.8	0.41	-	-	-	-	-
自動車部品	107.1	87.7	108.8	24.1	0.22	109.1	129.1	147.0	13.9	0.17
二輪自動車部品	19.5	83.8	58.1	▲ 30.7	▲ 0.05	91.5	125.2	165.1	31.9	0.32

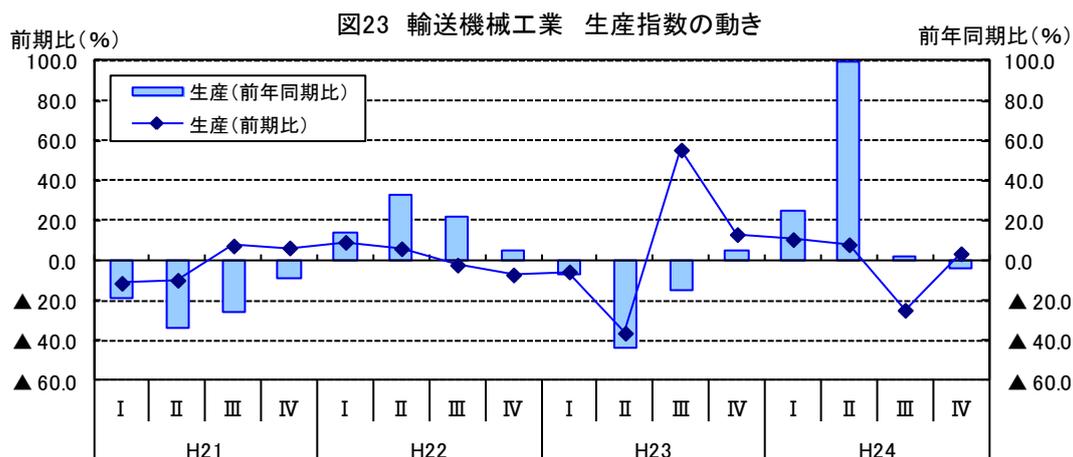
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 10.7%、Ⅱ期 8.1%と平成 23 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇し、Ⅲ期▲24.7%と低下したが、Ⅳ期 3.6%と再び上昇した。

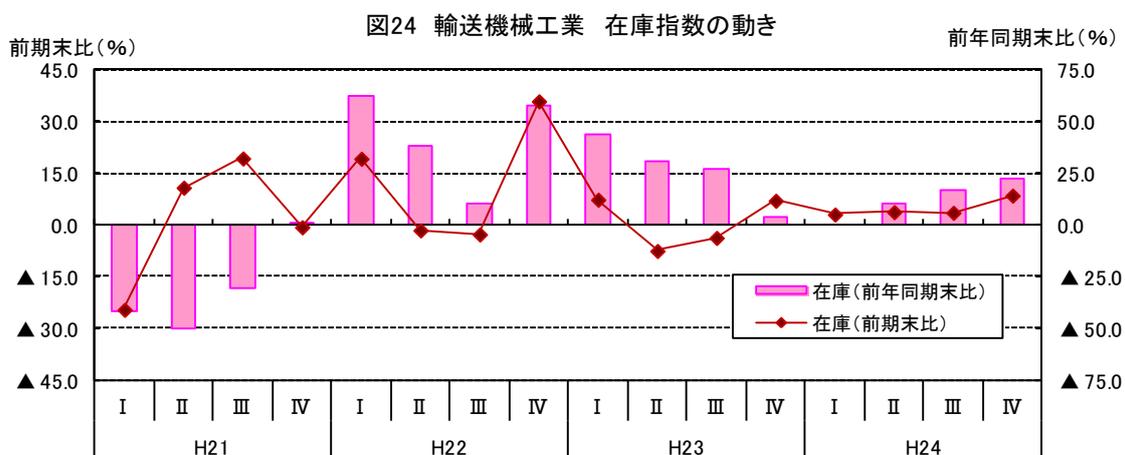
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 24.8%、Ⅱ期 99.1%、Ⅲ期 1.8%と平成 23 年Ⅳ期以降 4 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲4.3%と前年を下回った（図 23、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.1%、Ⅱ期 3.8%、Ⅲ期 3.6%、Ⅳ期 8.6%と平成 23 年Ⅳ期以降 5 期連続上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 0.0%と横ばいとなったが、Ⅱ期 10.1%、Ⅲ期 17.0%、Ⅳ期 22.0%と 3 期連続で前年を上回った（図 24、統計表第 4 表）。



(7) 窯業・土石製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲14.0%（寄与度▲0.41）低下の89.7となり、3年ぶりに低下した。これは6品目中、1品目（ガラス製品）が増加したものの、5品目（生コンクリート、セメント製品、炭素製品、ファインセラミックス、その他窯業・土石製品）が減少したことによる（表7、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比1.5%（寄与度0.04）上昇の81.0となり、平成21年以降で初めて上昇した。これは5品目中、2品目（ガラス製品、その他窯業・土石製品）が減少したものの、3品目（セメント製品、炭素製品、ファインセラミックス）が増加したことによる（表7、統計表第9表）。

表7 品目別生産指数（年平均）・在庫指数（年末）

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
窯業・土石製品工業	286.3	104.3	89.7	▲14.0	▲0.41	409.7	79.8	81.0	1.5	0.04
ガラス製品	60.3	111.4	113.0	1.4	0.01	19.2	186.6	170.4	▲8.7	▲0.03
生コンクリート	89.8	93.9	70.1	▲25.3	▲0.21	-	-	-	-	-
セメント製品	14.8	99.6	98.6	▲1.0	▲0.00	228.1	73.1	73.9	1.1	0.02
炭素製品	100.4	109.6	92.0	▲16.1	▲0.17	73.8	48.6	67.9	39.7	0.12
ファインセラミックス	6.4	95.4	84.7	▲11.2	▲0.01	6.0	152.1	163.0	7.2	0.01
その他窯業・土石製品	14.6	110.6	91.0	▲17.7	▲0.03	82.6	96.2	85.5	▲11.1	▲0.08

寄与度は鉱工業に対する数値

図25 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数（平成22年=100）

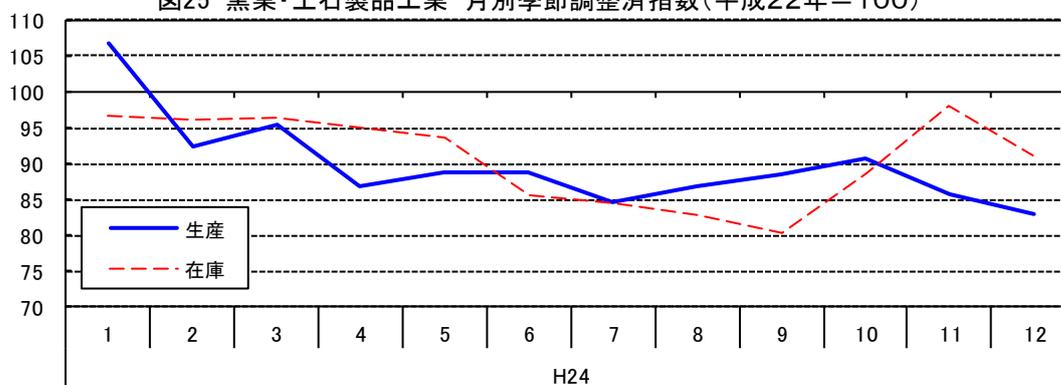
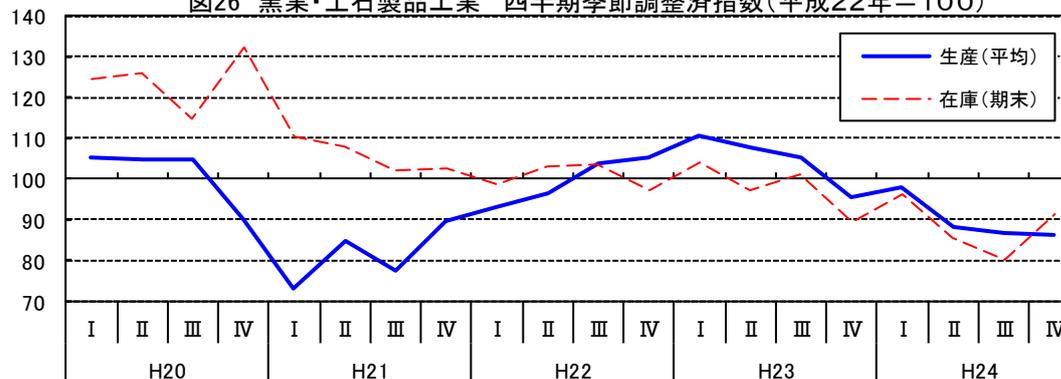


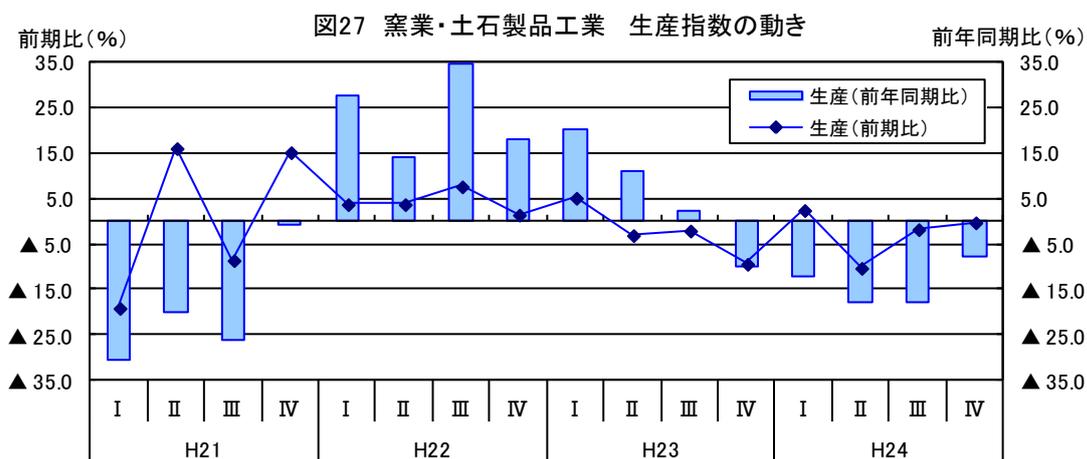
図26 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数（平成22年=100）



② 生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期2.5%と上昇したが、II期▲10.2%、III期▲1.7%、IV期▲0.2%と3期連続で低下した。

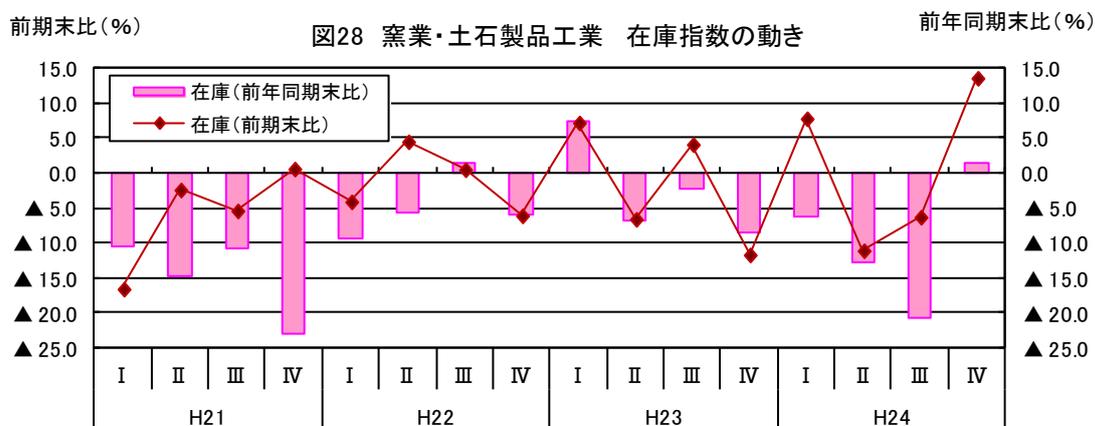
また、前年同期比(原指数)は、I期▲12.4%、II期▲17.7%、III期▲18.0%、IV期▲7.7%と平成23年IV期以降5期連続で前年を下回った(図27、統計表第3表)。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期は7.8%と上昇し、II期▲11.1%、III期▲6.3%と低下したが、IV期13.6%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期▲6.3%、II期▲12.8%、III期▲20.9%と平成23年II期以降6期連続で前年を下回ったが、IV期1.5%と前年を上回った(図28、統計表第4表)。



(8) 化学工業

① 概況

生産指数は前年比 8.4%（寄与度 1.47）上昇の 130.4 となり、3 年連続で上昇した。これは 8 品目中、7 品目（化学肥料、ソーダ工業品、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液）が減少したものの、1 品目（医薬品）が増加したことによる（表 8、統計表第 1 表）。

在庫指数は前年末比▲7.4%（寄与度▲2.22）低下の 118.1 となり、2 年ぶりに低下した。これは 8 品目中、1 品目（化学肥料）が増加したものの、7 品目（ソーダ工業品、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液、医薬品）が減少したことによる（表 8、統計表第 9 表）。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
化学工業	1495.7	120.3	130.4	8.4	1.47	2727.9	127.5	118.1	▲7.4	▲2.22
化学肥料	120.9	98.2	87.6	▲10.8	▲0.12	349.7	95.6	98.1	2.6	0.08
ソーダ工業品	19.8	100.1	94.2	▲5.9	▲0.01	11.3	85.4	79.3	▲7.1	▲0.01
無機化学製品	52.1	100.9	99.9	▲1.0	▲0.01	94.8	119.7	85.8	▲28.3	▲0.28
プラスチック樹脂	19.2	115.1	89.6	▲22.2	▲0.05	265.0	147.6	113.6	▲23.0	▲0.78
その他化学製品	144.2	101.6	86.6	▲14.8	▲0.21	341.1	108.8	83.7	▲23.1	▲0.74
接着剤	73.5	98.0	93.2	▲4.9	▲0.03	178.6	118.4	87.6	▲26.0	▲0.48
医薬品原末・原液	36.9	93.8	74.3	▲20.8	▲0.07	62.8	115.2	114.9	▲0.3	▲0.00
医薬品	1029.1	129.5	149.3	15.3	1.98	1424.6	138.6	138.5	▲0.1	▲0.01

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

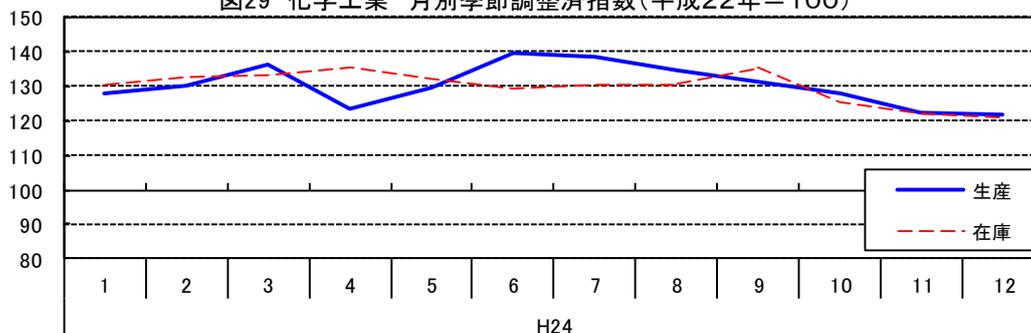
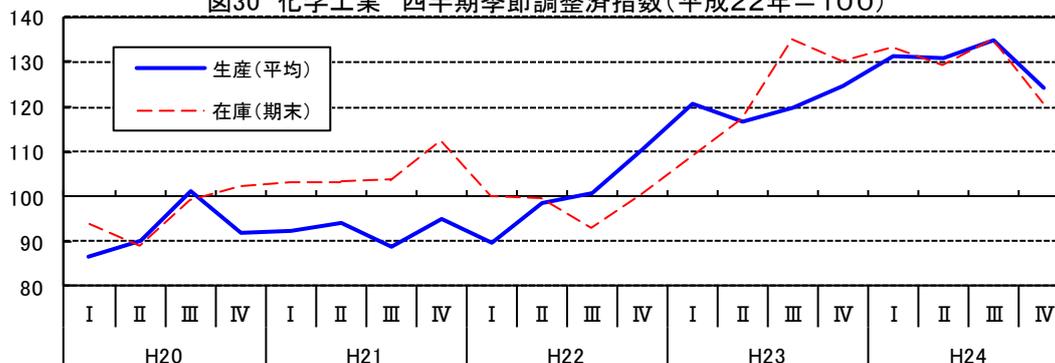


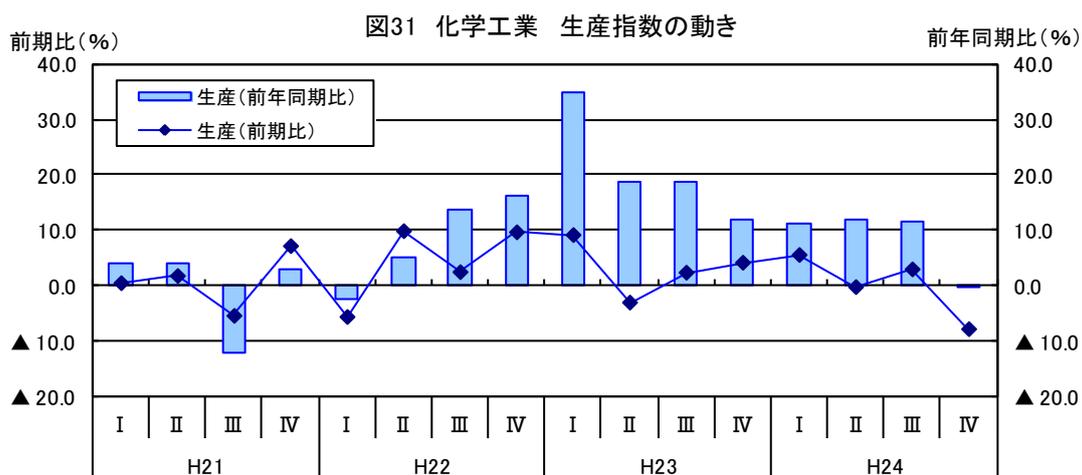
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 5.5%と平成 23 年Ⅲ期以降 3 期連続で上昇し、Ⅱ期▲0.3%と低下したが、Ⅲ期 2.9%と上昇し、Ⅳ期▲7.9%と再び低下した。

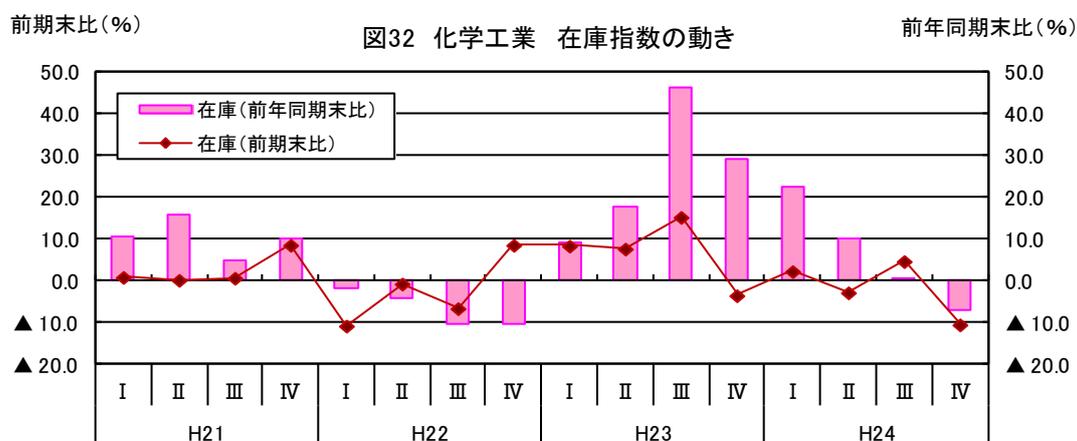
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 11.3%、Ⅱ期 12.0%、Ⅲ期 11.7%と平成 22 年Ⅱ期以降 10 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲0.1%と前年を下回った（図 31、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.2%と上昇し、Ⅱ期▲2.9%と低下したが、Ⅲ期 4.6%と上昇し、Ⅳ期▲10.6%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 22.3%、Ⅱ期 9.9%、Ⅲ期 0.4%と平成 23 年Ⅰ期以降 7 期連続で上昇したが、Ⅳ期▲7.4%と前年を下回った（図 32、統計表第 4 表）。



(9) プラスチック製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲1.6%（寄与度▲0.12）低下の94.1となり、2年連続で低下した。これは6品目中、2品目（機械器具部品、建材・強化製品）が増加したものの、4品目（フィルム・シート、容器、日用品雑貨、その他プラスチック製品）が減少したことによる（表9、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比14.9%（寄与度1.28）上昇の121.4となり、3年連続で上昇した。これは6品目中、2品目（機械器具部品、その他プラスチック製品）が減少したものの、4品目（フィルム・シート、容器、日用品雑貨、建材・強化製品）が増加したことによる（表9、統計表第9表）。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)			寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)			
		平成23年	平成24年	前年比(%)			平成23年	平成24年	前年末比(%)	
プラスチック製品工業	826.0	95.6	94.1	▲1.6	▲0.12	942.9	105.7	121.4	14.9	1.28
フィルム・シート	304.1	93.3	84.6	▲9.3	▲0.26	352.4	87.8	108.6	23.7	0.63
機械器具部品	289.4	87.2	91.2	4.6	0.11	37.8	100.9	84.2	▲16.6	▲0.05
容器	62.8	111.9	103.6	▲7.4	▲0.05	76.4	111.3	123.2	10.7	0.08
日用品雑貨	66.5	114.1	112.2	▲1.7	▲0.01	339.4	107.8	139.0	28.9	0.92
建材・強化製品	31.7	91.1	132.9	45.9	0.13	13.5	136.8	138.0	0.9	0.00
その他プラスチック製品	71.5	109.6	104.2	▲4.9	▲0.04	123.4	145.4	117.7	▲19.1	▲0.30

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

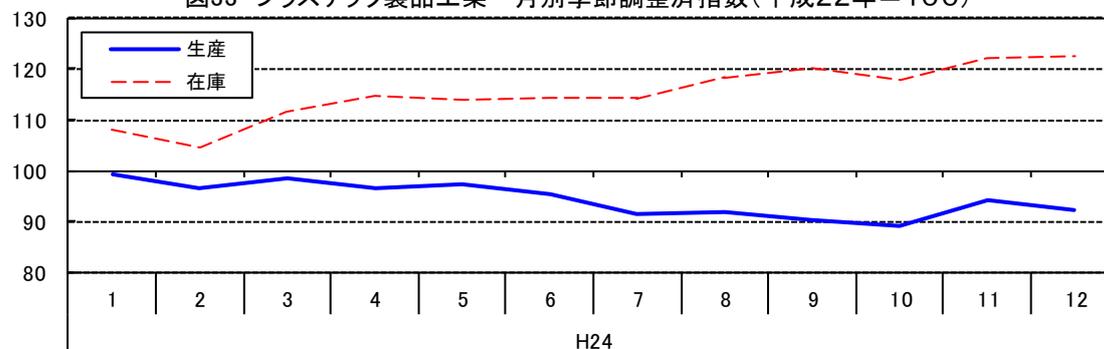
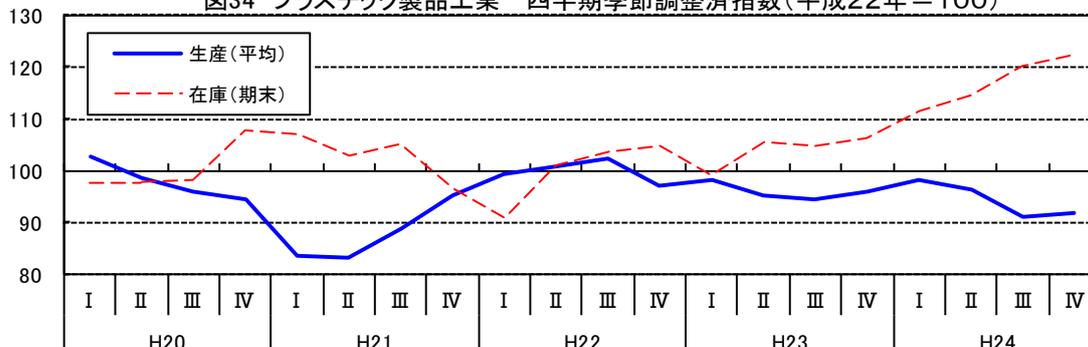


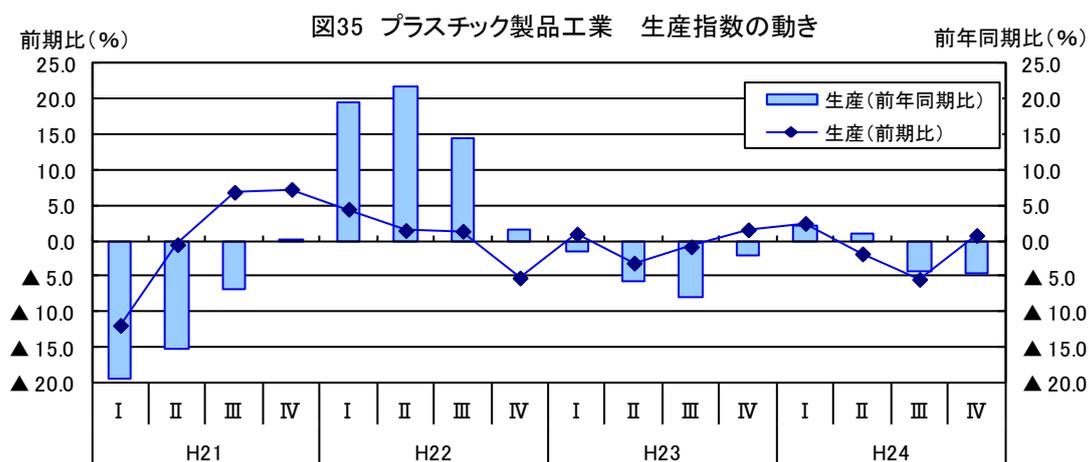
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、I期2.5%と平成23年IV期以降2期連続で上昇し、II期▲1.8%、III期▲5.4%と低下したが、IV期0.8%と再び上昇した。

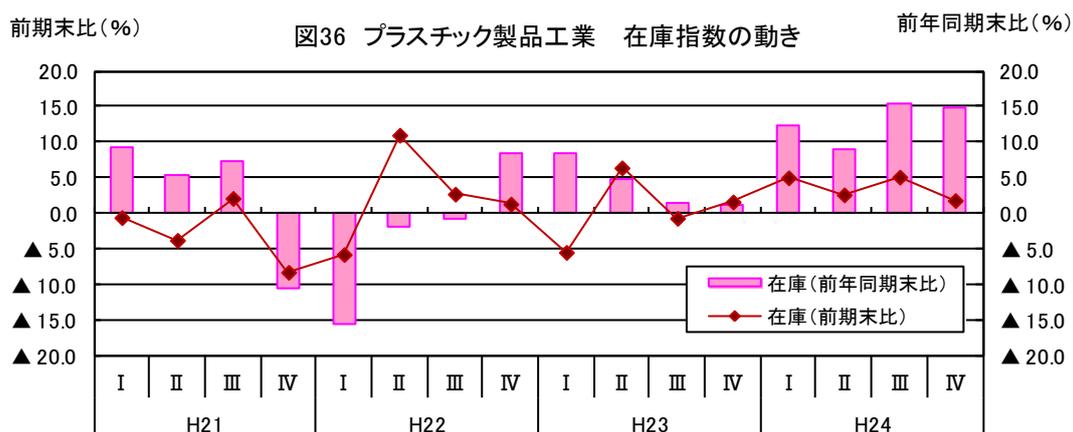
また、前年同期比（原指数）は、I期2.0%、II期0.9%と前年を上回ったが、III期▲4.2%、IV期▲4.7%と前年を下回った（図35、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、I期5.0%、II期2.6%、III期5.1%、IV期1.8%と平成23年IV期以降5期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、I期12.4%、II期8.9%、III期15.3%、IV期14.9%と平成22年IV期以降9期連続で前年を上回った（図36、統計表第4表）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概況

生産指数は前年比▲7.6%（寄与度▲0.24）低下の93.4となり、3年ぶりに低下した。これは5品目すべて（パルプ、紙、板紙、ダンボール・箱・袋、その他紙製品）が減少したことによる（表10、統計表第1表）。

在庫指数は前年末比▲5.9%（寄与度▲0.40）低下の94.7となり4年連続で低下した。これは4品目中、2品目（板紙、その他紙製品）が増加し、1品目（ダンボール・箱・袋）が横ばいとなったものの、1品目（紙）が減少したことによる（表10、統計表第9表）。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
パルプ・紙・紙加工品工業	316.9	101.1	93.4	▲7.6	▲0.24	773.9	100.6	94.7	▲5.9	▲0.40
パルプ	55.8	99.9	85.6	▲14.3	▲0.08	-	-	-	-	-
紙	102.8	98.2	85.7	▲12.7	▲0.12	530.4	93.9	81.1	▲13.6	▲0.59
板紙	30.2	107.6	103.9	▲3.4	▲0.01	120.0	113.5	118.6	4.5	0.05
ダンボール・箱・袋	105.4	103.1	100.9	▲2.1	▲0.02	56.5	108.8	108.8	0.0	0.00
その他紙製品	22.7	99.1	98.9	▲0.2	▲0.00	67.0	123.9	147.6	19.1	0.14

寄与度は鉱工業に対する数値

図37 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

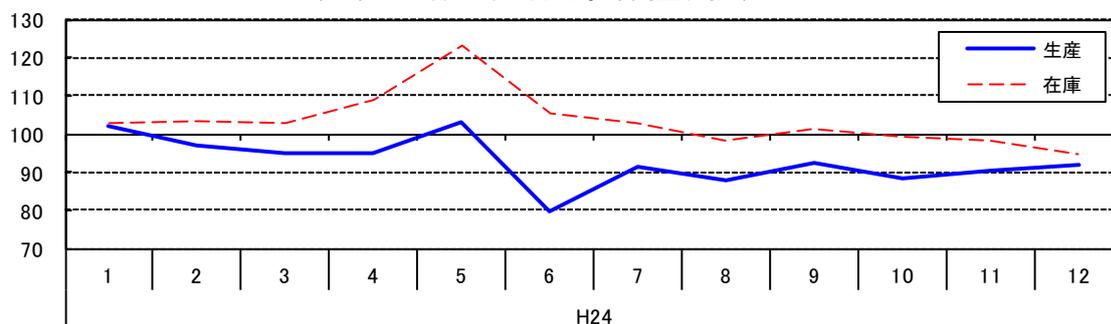
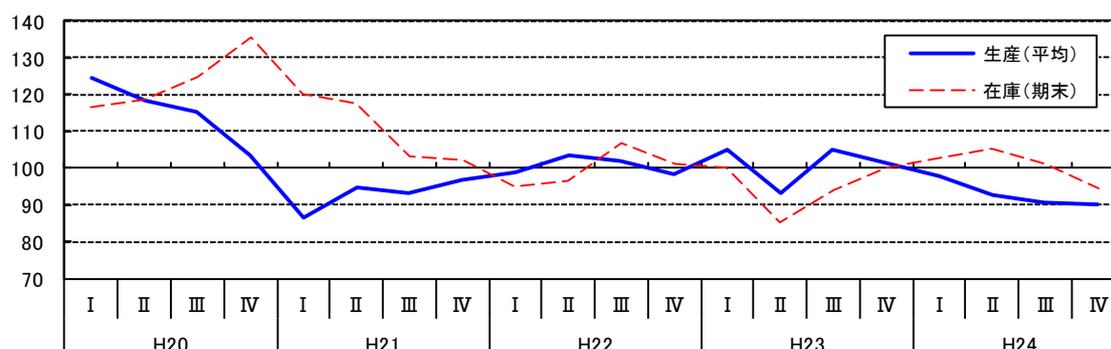


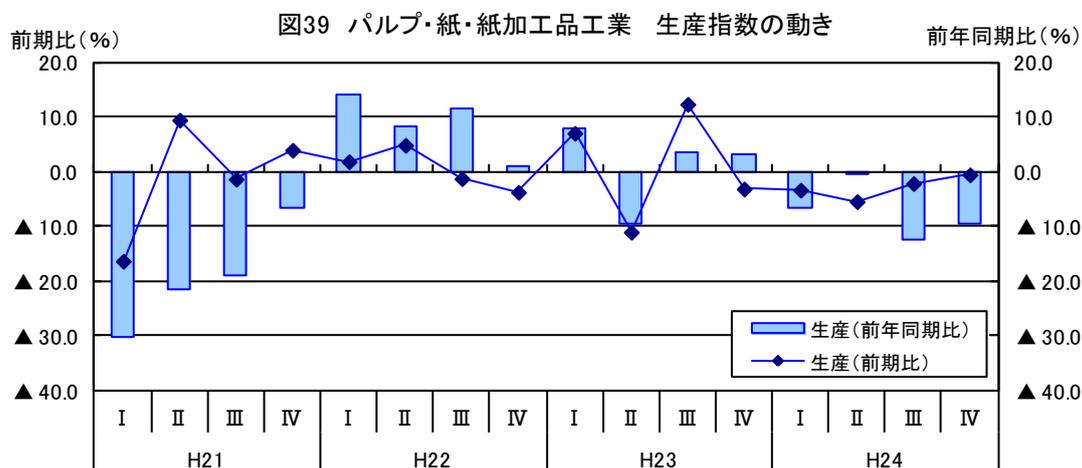
図38 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.4%、Ⅱ期▲5.5%、Ⅲ期▲2.2%、Ⅳ期▲0.6%と平成23年Ⅳ期以降5期連続で低下した。

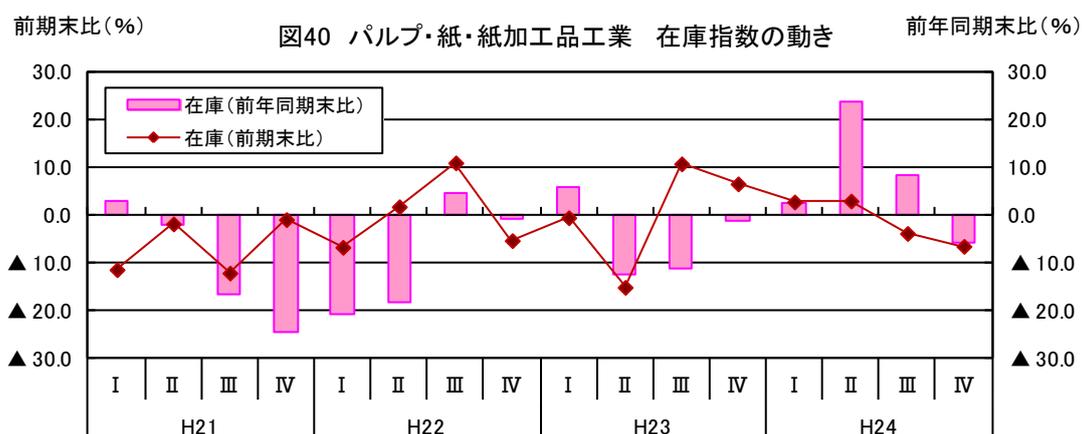
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲6.7%、Ⅱ期▲0.2%、Ⅲ期▲12.4%、Ⅳ期▲9.7%と4期連続で前年を下回った（図39、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.6%、Ⅱ期 2.8%と平成23年Ⅲ期以降4期連続で上昇したが、Ⅲ期▲4.0%、Ⅳ期▲6.7%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 2.3%、Ⅱ期 23.5%、Ⅲ期 8.1%と3期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲5.9%と前年を下回った（図40、統計表第4表）。



(11) 繊維工業

① 概況

生産指数は前年比 0.7%（寄与度 0.02）上昇の 98.2 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、2 品目（化繊・紡績、衣類）が減少したものの、3 品目（織物、染色整理、その他繊維製品）が増加したことによる（表 11、統計表第 1 表）。

在庫指数は前年末比▲14.1%（寄与度▲0.52）低下の 94.1 となり、2 年連続で低下した。これは 5 品目中、1 品目（染色整理）が増加したものの、4 品目（化繊・紡績、織物、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表 11、統計表第 9 表）。

表 11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
繊維工業	268.7	97.5	98.2	0.7	0.02	389.0	109.5	94.1	▲ 14.1	▲ 0.52
化繊・紡績	133.8	96.7	95.4	▲ 1.3	▲ 0.02	159.0	90.5	59.8	▲ 33.9	▲ 0.42
織物	19.1	82.1	87.8	6.9	0.01	74.0	150.9	140.1	▲ 7.2	▲ 0.07
染色整理	8.2	107.0	124.7	16.5	0.01	50.5	108.7	120.4	10.8	0.05
衣類	57.0	103.5	100.5	▲ 2.9	▲ 0.02	62.0	111.2	100.8	▲ 9.4	▲ 0.06
その他繊維製品	50.6	96.9	102.8	6.1	0.03	43.5	107.1	100.7	▲ 6.0	▲ 0.02

平成22年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

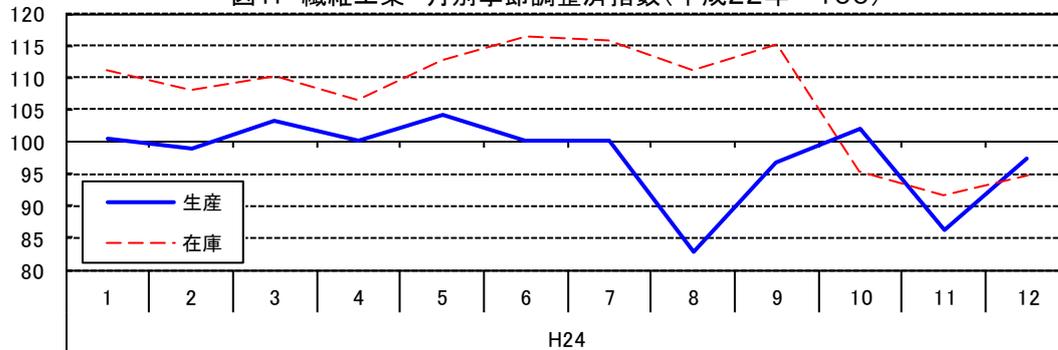
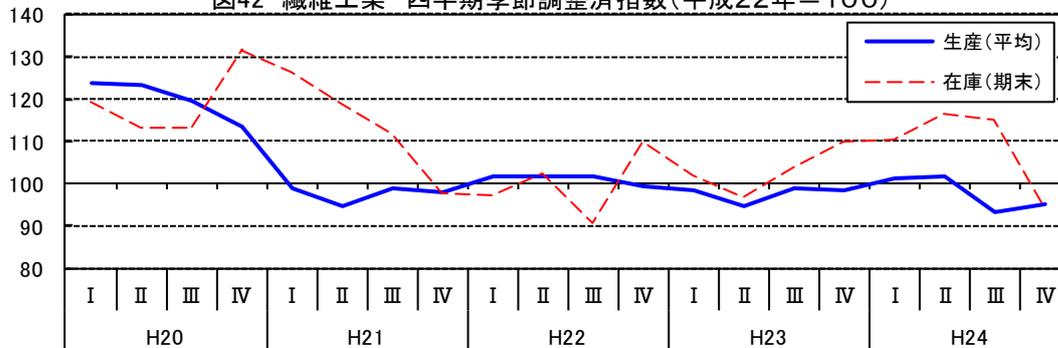


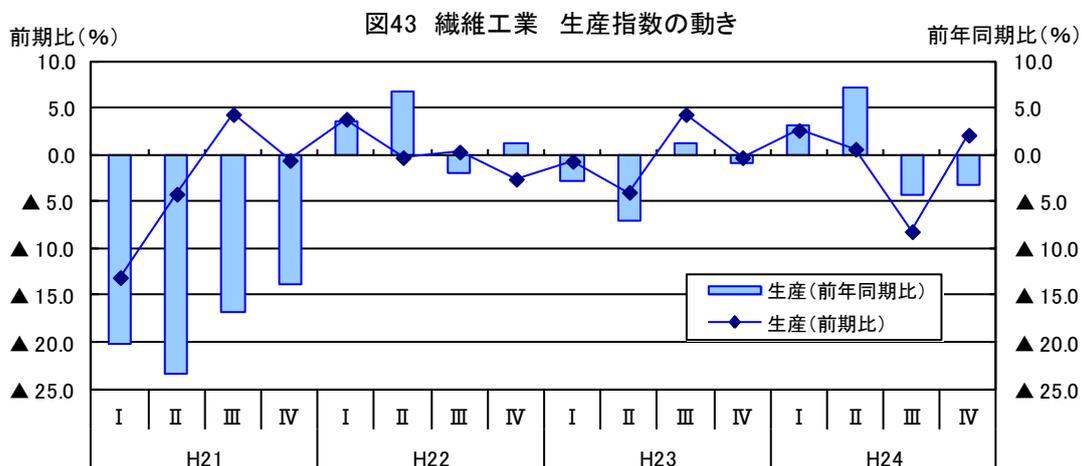
図42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.6%、Ⅱ期 0.6%と上昇し、Ⅲ期▲8.2%と低下したが、Ⅳ期 2.1%と再び上昇した。

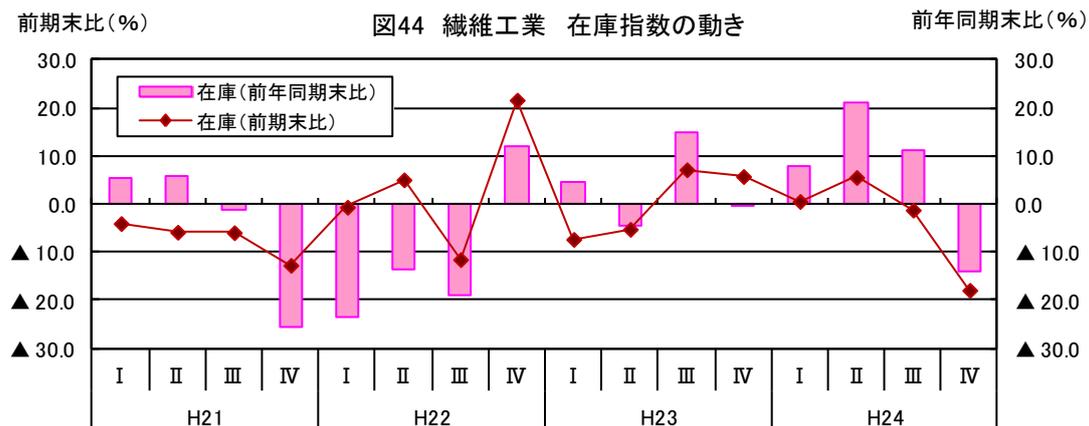
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 3.2%、Ⅱ期 7.2%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲4.4%、Ⅳ期▲3.2%と前年を下回った（図 43、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.6%、Ⅱ期 5.6%と平成 23 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲1.2%、Ⅳ期▲17.9%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 7.9%、Ⅱ期 21.0%、Ⅲ期 11.3%と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期▲14.1%と低下した（図 44、統計表第 4 表）。



(12) 食料品工業

① 概況

生産指数は前年比 6.4%（寄与度 0.26）上昇の 110.2 となり、3 年連続で上昇した。これは 8 品目中、3 品目（調味料、惣菜、その他食料品工業製品）が減少したものの、5 品目（冷凍調理品、乳製品、畜産製品、飲料、その他食料品）が増加したことによる（表 12、統計表第 1 表）。

在庫指数は前年末比▲5.2%（寄与度▲0.25）低下の 80.4 となり、3 年連続で低下した。これは 7 品目中 3 品目（乳製品、調味料、畜産製品）が増加したものの、4 品目（冷凍調理品、飲料、その他食料品工業製品、その他食料品）が減少したことによる（表 12、統計表第 9 表）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
食料品工業	409.2	103.6	110.2	6.4	0.26	649.2	84.8	80.4	▲ 5.2	▲ 0.25
冷凍調理品	79.4	111.3	115.7	4.0	0.03	6.9	118.3	95.5	▲ 19.3	▲ 0.01
乳製品	35.0	100.5	101.1	0.6	0.00	30.9	97.2	100.9	3.8	0.01
調味料	24.7	94.8	90.6	▲ 4.4	▲ 0.01	47.3	93.2	115.0	23.4	0.09
畜産製品	32.2	113.5	125.7	10.7	0.04	3.8	77.5	80.7	4.1	0.00
惣菜	18.0	109.6	108.9	▲ 0.6	▲ 0.00	-	-	-	-	-
飲料	159.3	100.8	111.9	11.0	0.17	539.4	81.3	75.9	▲ 6.6	▲ 0.25
その他食料品工業製品	0.7	94.2	93.4	▲ 0.8	▲ 0.00	8.9	115.2	96.9	▲ 15.9	▲ 0.01
その他食料品	59.9	99.6	104.0	4.4	0.03	12.0	140.6	74.3	▲ 47.2	▲ 0.07

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

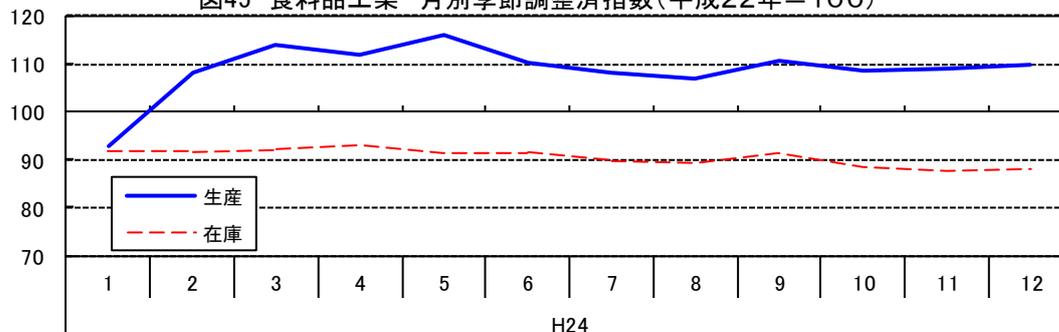
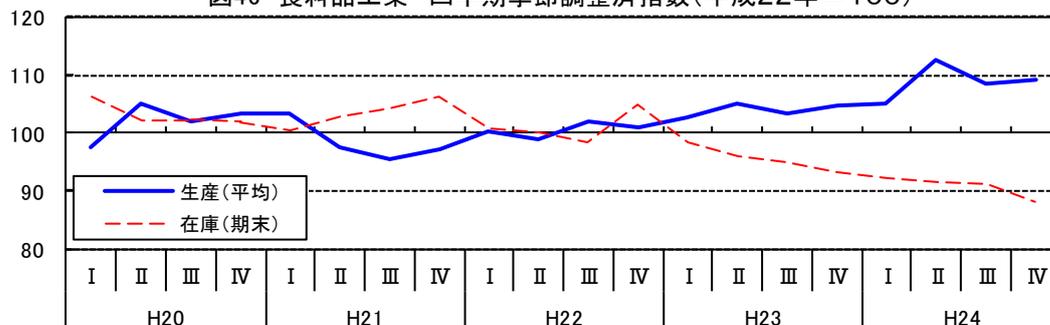


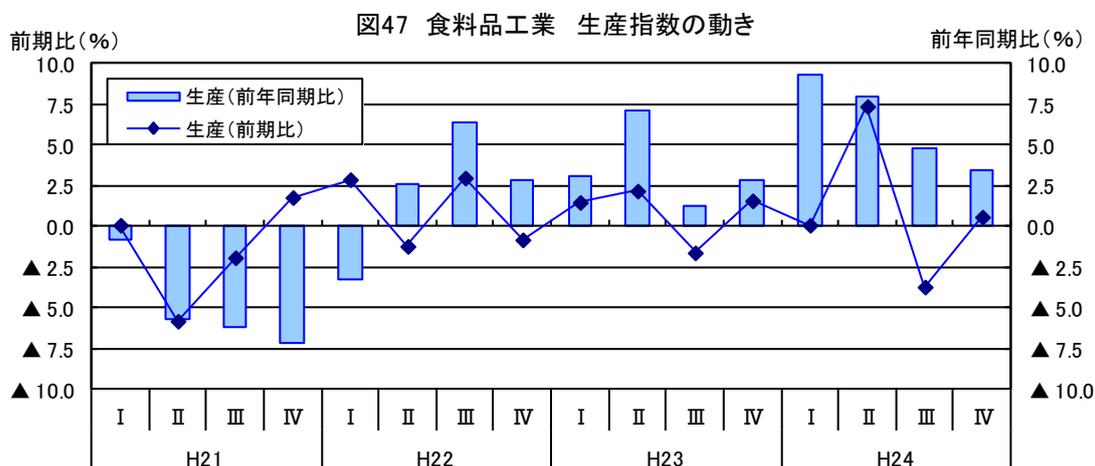
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.1%、Ⅱ期 7.4%と平成 23 年Ⅳ期以降 3 期連続で上昇し、Ⅲ期▲3.7%と低下したが、Ⅳ期 0.6%と再び上昇した。

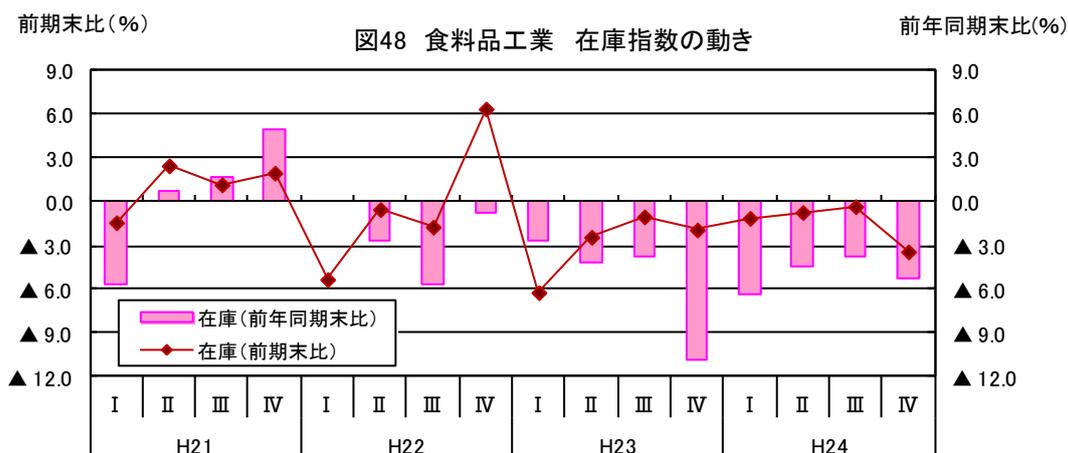
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 9.3%、Ⅱ期 8.0%、Ⅲ期 4.8%、Ⅳ期 3.5%と平成 22 年Ⅱ期以降 11 期連続で前年を上回った（図 47、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.1%、Ⅱ期▲0.7%、Ⅲ期▲0.3%、Ⅳ期▲3.4%と平成 23 年Ⅰ期以降 8 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲6.4%、Ⅱ期▲4.5%、Ⅲ期▲3.8%、Ⅳ期▲5.2%と平成 22 年Ⅱ期以降 11 期連続で前年を下回った（図 48、統計表第 4 表）。



(13) その他工業

① 概況

生産指数は前年比▲3.6%（寄与度▲0.15）低下の97.5となり、3年ぶりに低下した。これは4品目中、2品目（ゴム製品工業、印刷業）が増加したものの、2品目（木材・木製品工業、その他製品工業）が減少したことによる（表13、統計表第1表）。

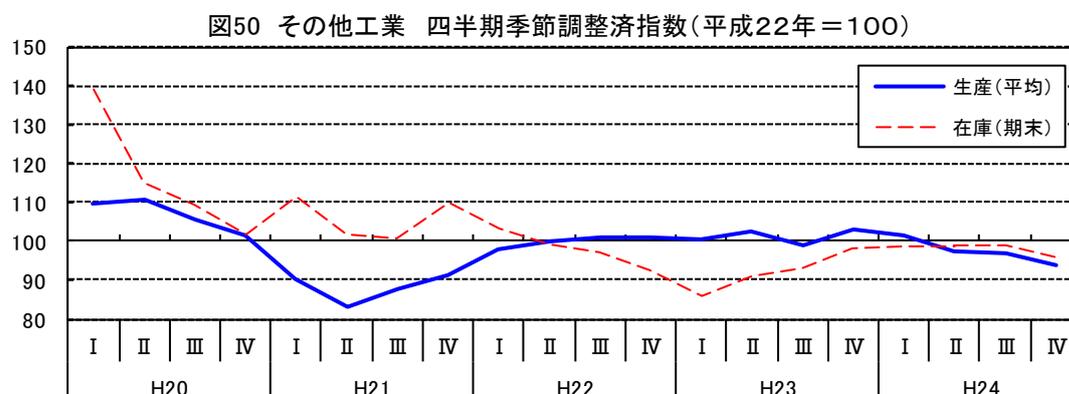
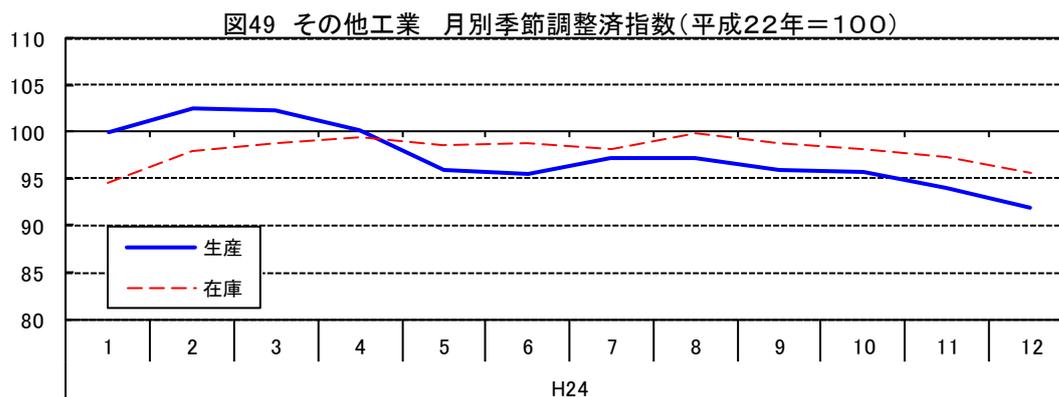
在庫指数は前年末比▲2.4%（寄与度▲0.03）低下の89.1となり、2年ぶりに低下した。これは2品目中、1品目（その他製品工業）が増加したものの、1品目（木材・木製品工業）が減少したことによる（表13、統計表第9表）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成23年	平成24年				平成23年	平成24年		
その他工業	441.7	101.1	97.5	▲3.6	▲0.15	158.3	91.3	89.1	▲2.4	▲0.03
ゴム製品工業	64.3	98.7	108.6	10.0	0.06	-	-	-	-	-
印刷業	124.2	99.2	100.2	1.0	0.01	-	-	-	-	-
木材・木製品工業	54.1	80.8	70.9	▲12.3	▲0.05	127.4	81.8	74.0	▲9.5	▲0.09
その他製品工業	199.1	108.6	99.4	▲8.5	▲0.18	30.9	130.6	151.4	15.9	0.06

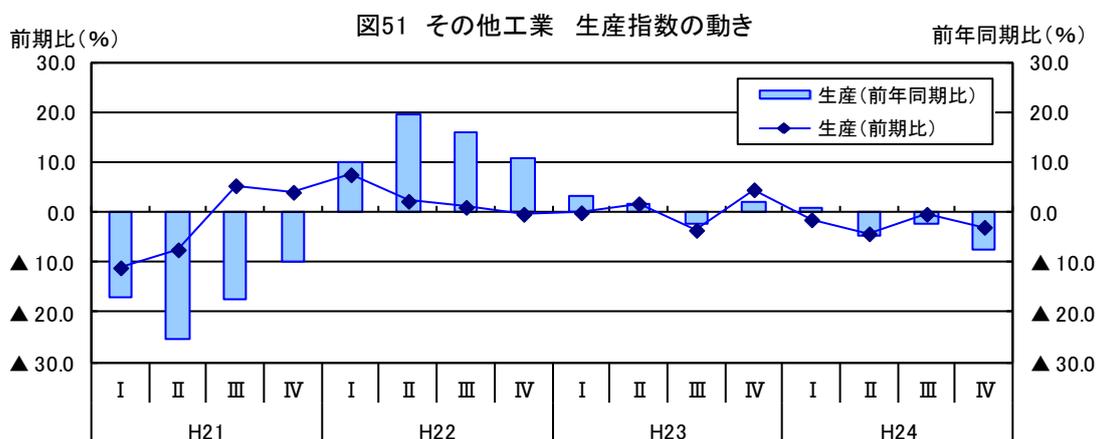
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.5%、Ⅱ期▲4.3%、Ⅲ期▲0.4%、Ⅳ期▲3.0%と4期連続で低下した。

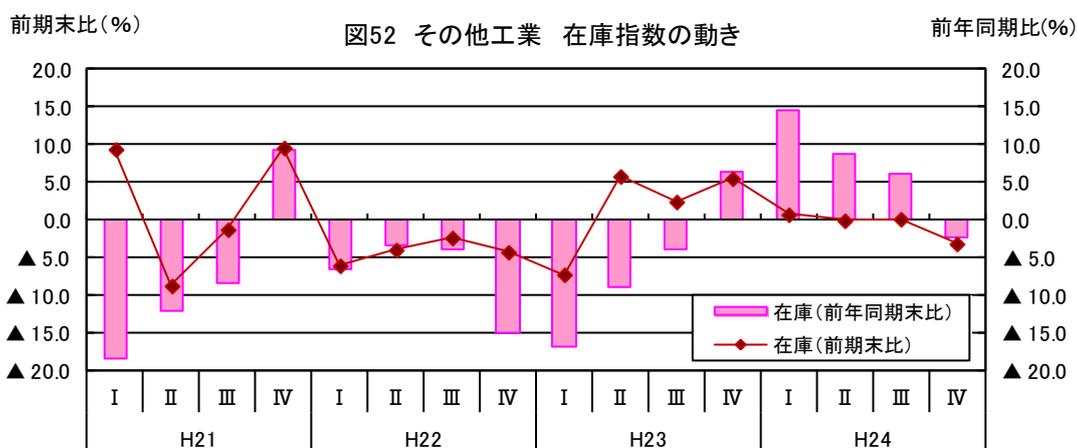
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期0.6%と平成23年Ⅳ期以降2期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲4.8%、Ⅲ期▲2.2%、Ⅳ期▲7.4%と前年を下回った（図51、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期0.7%と平成23年Ⅱ期以降4期連続で上昇し、Ⅱ期▲0.1%と低下したが、Ⅲ期0.1%と上昇し、Ⅳ期▲3.2%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期14.7%、Ⅱ期8.7%、Ⅲ期6.2%と平成23年Ⅳ期以降4期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲2.4%と再び前年を下回った（図52、統計表第4表）。



3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P17～18「業種別・財別品目一覧」を参照。

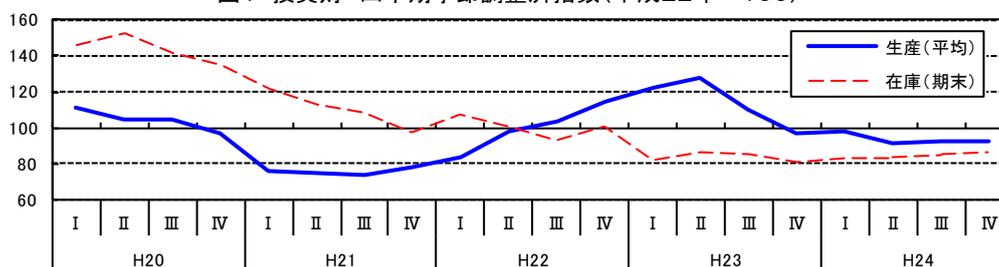
(1) 最終需要財

生産は前年比▲4.2%低下の 112.0 となり、在庫は前年末比 3.8%上昇の 110.1 となった(統計表第 11 表・第 13 表)。

① 投資財

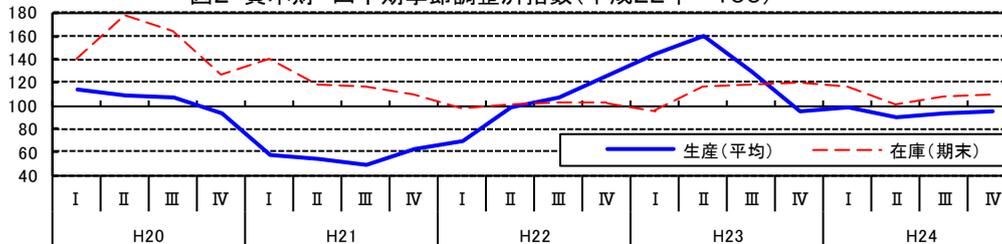
投資財全体では、生産が前年比(原指数)▲18.1%低下の 93.3 となり、在庫が前年末比 6.5%上昇の 85.2 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期 1.5% 上昇したが、II 期▲6.3%低下し、III 期 0.3%、IV 期 1.1%と 2 期連続で再び上昇した(図 1、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

図1 投資財 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



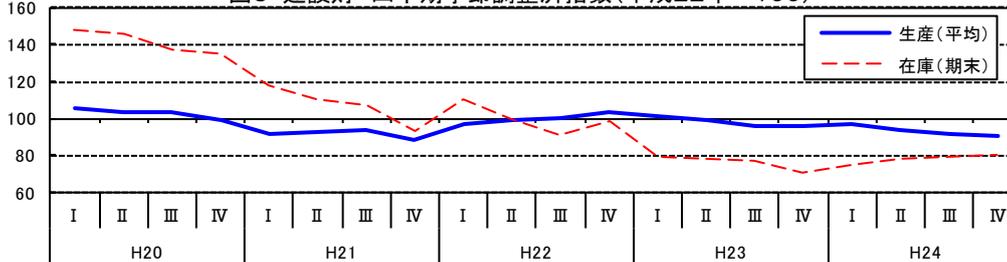
投資財のうち**資本財**は、生産が前年比▲30.2%低下の 92.9 となり、在庫が前年末比▲8.7%低下の 115.1 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期は上昇したが、II 期に低下し、III 期、IV 期と再び上昇した(図 2、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

図2 資本財 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



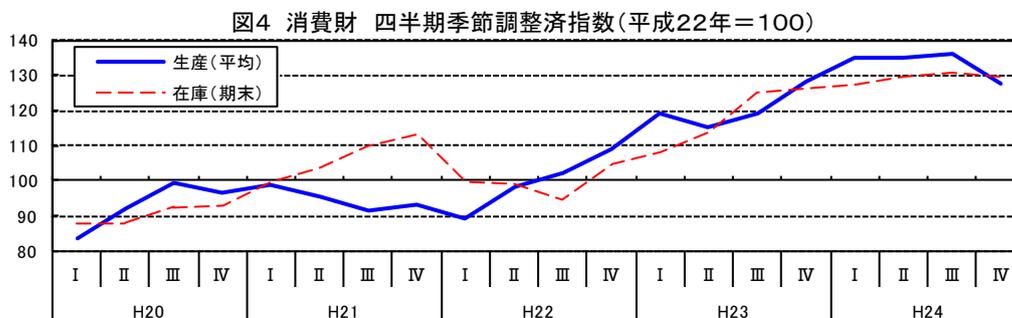
また、**建設財**は、生産が前年比▲4.2%低下の 93.6 となり、在庫が前年末比 13.6% 上昇の 77.7 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期は平成 23 年 IV 期以降 2 期連続で上昇したが、II 期、III 期、IV 期と 3 期連続で低下した(図 3、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

図3 建設財 四半期季節調整済指数(平成22年=100)

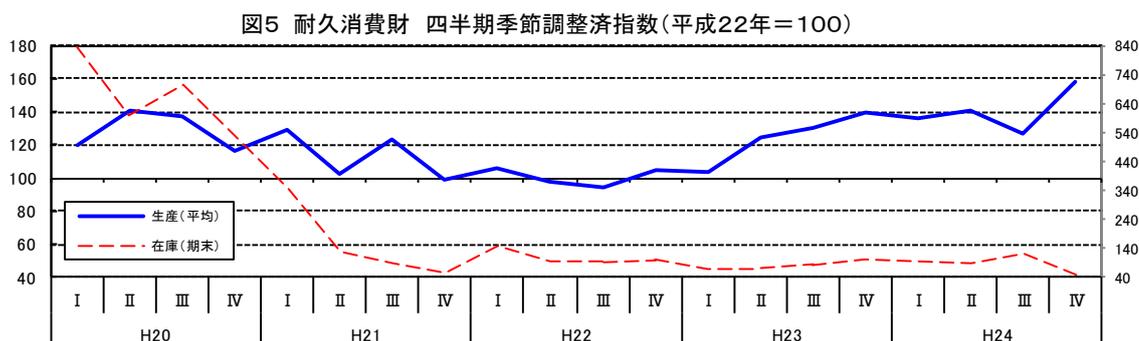


② 消費財

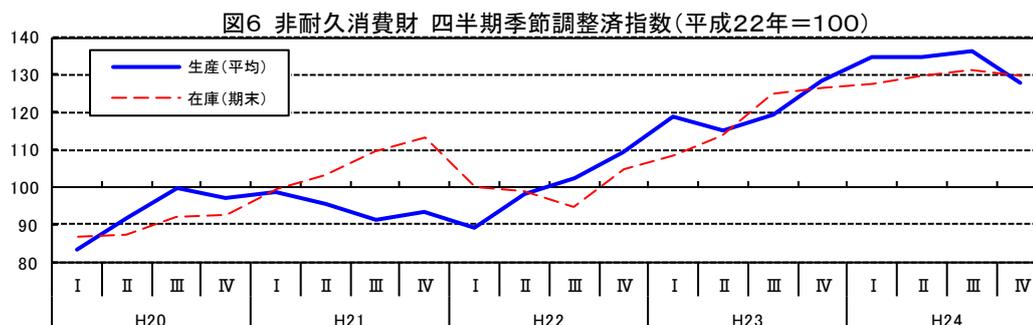
消費財全体では、生産が前年比（原指数）11.3%上昇の133.9となり、在庫が前年末比2.8%上昇の122.9となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期5.1%と平成23年III期以降3期連続で上昇し、II期0.0%と横ばいに、III期1.0%と再び上昇したが、IV期▲6.2%と低下した（図4、統計表第2表・第5表・第6表）。



消費財のうち**耐久消費財**は、生産が前年比14.2%上昇の142.3となり、在庫が前年末比▲50.1%低下の56.0となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期は低下し、II期は上昇したが、III期は低下し、IV期は再び上昇した（図5、統計表第2表・第5表・第6表）。

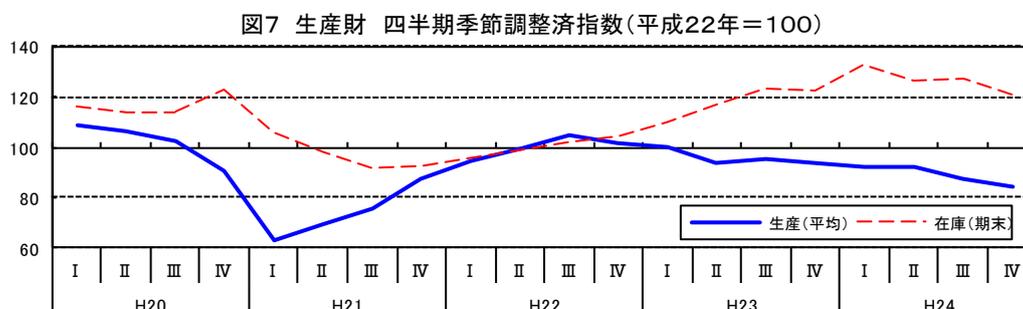


非耐久消費財は、生産が前年比11.2%上昇の133.8となり、在庫が前年末比2.8%上昇の123.0となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期は平成23年III期以降3期連続で上昇し、II期は横ばい、III期は再び上昇したが、IV期は低下した（図6、統計表第2表・第5表・第6表）。



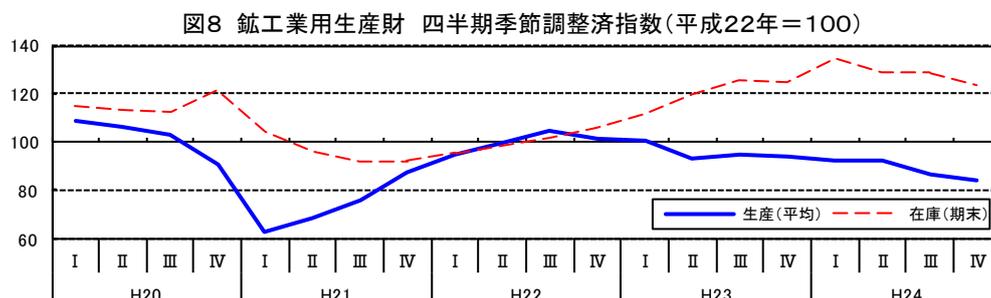
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲6.7%低下の 89.1 となり、在庫が前年末比▲1.4%低下の 119.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期▲1.7%と平成 23 年IV期以降 2 期連続で低下したが、II 期 0.0%と横ばいに、III 期▲5.5%、IV 期▲3.1%と再び低下した（図 7、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。



① 鉱工業用生産財

生産財のうち鉱工業用生産財は、生産が前年比▲6.9%低下の 88.7 となり、在庫が前年末比▲1.4%低下の 121.8 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期、II 期、III 期、IV 期と平成 23 年IV期以降 5 期連続で低下した（図 8、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。



② その他用生産財

また、その他用生産財は、生産が前年比▲0.7%低下の 99.0 となり、在庫が前年末比▲3.7%低下の 92.5 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期は上昇したが、II 期、III 期、IV 期と 3 期連続で低下した（図 9、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

